

京都大学
東南アジア研究センター要覧

平成元年度版

ま え が き

『東南アジア研究センター要覧』は、センターの機構や研究の現状を報告する冊子として作成されてまいりました。一昨年からは、近年の研究活動の概要をできるだけ早くお知らせできるように、和文、英文のものをそれぞれ隔年で出版するよういたしました。本要覧は、従いまして、昭和62年度版に続く和文要覧となります。

平成元年度は、センターにとりまして大きな節目となった年度でありました。詳しくは本要覧の「機構と組織」の章をご参照いただきたいと思います。今年度より新たに研究部門を5大部門（客員部門を除く）に統合し、研究スタッフの充実をはかることになりました。以前の9部門（文化構造、生活環境、社会構造、人口問題、経済発展、政治環境、生物構造、自然構造、水文環境）を統合し、生態環境、社会生態、統合環境、地域発展、人間環境の5大部門に編成する今回の機構改革は、東南アジアで急速に進んでいます政治的、経済的、社会的変化に対応できる研究体制の整備を目指したものであります。研究部門の編成替えによって研究スタッフの充実をはかることはもちろん、時代に即応した東南アジア地域研究の一層の発展を目指すべく努力してまいりたいと存じますので、この機会に皆様のさらなるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

前要覧でも触れたことではありますが、国際化時代を背景に東南アジア地域とわが国との関係はますます深まりつつあります。センターだけをみましても、外国人客員部門への研究者の招聘、その他の機関を通じての外国人学者の受け入れなど、近年の研究者の交流拡大には目をみはるものがあります。センターが、今回の研究部門の再編を機に、東南アジア地域の研究者ならびに研究機関との交流の文字どおりのセンターとしてもさらに発展する必要があることを痛感しております。こうした研究交流の面につきましても、一層のご協力をいただければ幸いに存じます。

平成元年12月1日

京都大学東南アジア研究センター

所 長 石 井 米 雄

目 次

第1章	性格と沿革	1
第2章	機構と組織	4
	1. 機 構	
	2. 協議員	
	3. 職 員	
	4. 海外連絡事務所	
	5. 学内研究担当教官	
	6. 学外研究協力者	
	7. 大学院教育	
第3章	研究活動	8
	1. 調査・研究	
	2. 国際交流	
	3. シンポジウム・セミナー・研究集会	
	4. 研究会等	
	5. 東南アジアセミナー	
	6. 資料収集及び情報処理	
	7. 出 版	
第4章	研究スタッフ	22
	1. 研究部門	
	2. 資料部	
第5章	出版目録	44
	1. 東南アジア研究叢書（和文，英文）	
	2. 『東南アジア研究』	
	3. 研究報告書シリーズ	

第1章 性格と沿革

京都大学東南アジア研究センターは、東南アジアおよびその周辺諸国を総合的に研究することを目的として設立された特色ある研究機関である。東南アジアとは、ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ビルマ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ブルネイの10ヵ国をさすが、研究の対象としては、厳密にこの範囲に限定しているわけではない。仏教の研究のためスリランカをふくめ、熱帯稲作の研究のためバングラデシュ、インドにまで手をひろげ、対外経済活動の研究のためには香港、台湾、韓国をも対象としたこともある。周辺諸国というのは、この意味である。

センターの研究活動は、東南アジアの自然環境的諸要因の自然科学的研究をもふくむ点において、人文科学とくに人類学と政治学を中心とする欧米の地域研究とは異なる特色もっている。東南アジアの地域理解のためにその自然環境の現状と変遷の過程を視野にいれることが基本であるという研究手法は、より総合的な地域研究の場としてセンターを特色づけているといえよう。欧米の地域研究 Area Studies に対して、センターのそれは、Integrated Area Studies と位置づけることができよう。センターは、このような学際的研究手法に加えて、その研究対象の力点を近代以降の東南アジアにおき、かつ文献解釈的研究よりは現地調査を重視して、現在の生きいきとして活動し、変転している東南アジアの学問的理解に貢献することを期している。

近隣のアジア諸国とわが国との学術文化の交流が深まるにつれて、センターが地域研究の中心として果たすべき役割への期待はいよいよ高まりつつある。その要請にこたえるため、センターは東南アジア諸国の学者・文化人はもちろん、東南アジア研究に関心をもつ世界の学者との不断の交流につとめている。そして同時に東南アジアに関する文献資料・学問的情報を収集し、それらをひろく内外の学者に利用してもらえるような態勢を整備しつつある。学問研究の国際交流は、これからの日本にとって大きな課題であるが、とくに近隣の東南アジア諸国の基礎的研究を実施しているセンターは、こうした面でもつねにその先達としての努力を傾ける必要があろう。

東南アジア研究センターが、京都大学に正式に設置されたのは、1965年のことである。それより以前、1963年1月には、本学に学内措置として「東南アジア研究センター」が設けられた。学内措置として創設せられた当時は、もっぱら民間からの寄付金とフォード財

団からの研究奨励金を委任経理金として受け入れ、それによって多数の本学教官を東南アジア各地の現地調査に派遣した。その研究活動の中心は、タイ計画とマレーシア計画という二つの総合調査であった。それは人類学者による村落定着調査から、農学者による熱帯稲作の諸条件の研究に至るまで、極めて多岐にわたったが、常に現地に密着し、現地の研究者と共同して研究を進めるという態度を失わないように留意してきた。このため当初よりバンコクに連絡事務所を置き、政府機関・大学・研究者との交渉、連絡に当たらせてきた。これらの研究の成果は、1963年に創刊された『東南アジア研究』に次々と発表され、内外の学者の注目を浴びるに至った。

この成果に対する評価は、センターが1965年4月に国立学校設置法施行規則の改正による全国で初めての「研究センター」として、京都大学の正式の研究機関と認められた事によって確定したと言えよう。それより逐年研究部門の増加を認められ、1988年度までに12部門（客員部門3をふくむ）、教授13名（客員部門教授相当4をふくむ）、助教授12名（客員部門助教授相当2をふくむ）、助手9名（客員部門助手相当2をふくむ）の定員を持つ研究機関に成長した。特にこの客員部門のうち、地域研究第一（外国人客員）研究部門は、東南アジアからの研究者をセンターの客員研究員として迎えるもので、この種の国際交流のための部門の設置は全国で最初の試みであった。

1989年度には研究部門の大幅な編成替えが実施された。これは、それまでの客員部門を除く9研究部門を5つの大部門に統合するもので、これによってセンターの研究スタッフは、教授18名（客員部門教授相当4を含む）、助教授12名（客員部門助教授相当2を含む）、助手8名（客員部門助手相当2を含む）へと拡充された。新しい大部門は、生態環境、社会生態、統合環境、地域発展、人間環境の5部門で、現在、新部門への統合に伴うさまざまな準備・調整作業が進行中である。

センターは、創設の当初以来和英両方の研究叢書の出版を行なって、研究成果を内外に問うてきているが、1970年以降、邦文は創文社に、英文は University of Hawaii Press に出版を委託して公刊している。また『東南アジア研究』も内外の大学その他の研究機関と交換しているばかりでなく、財団法人アジア研究協会（理事長 奥田東）に委託して、一般に購読してもらう道をひらいている。

1969年に「バンコク連絡事務所」の運営経費が、次いで1973年に「ジャカルタ連絡事務所」の運営経費も国の予算として認められると共に、現地調査費も国の予算で認められ、ようやく当センターの現地調査を計画的に推進する最小限の基礎が与えられるようになった。

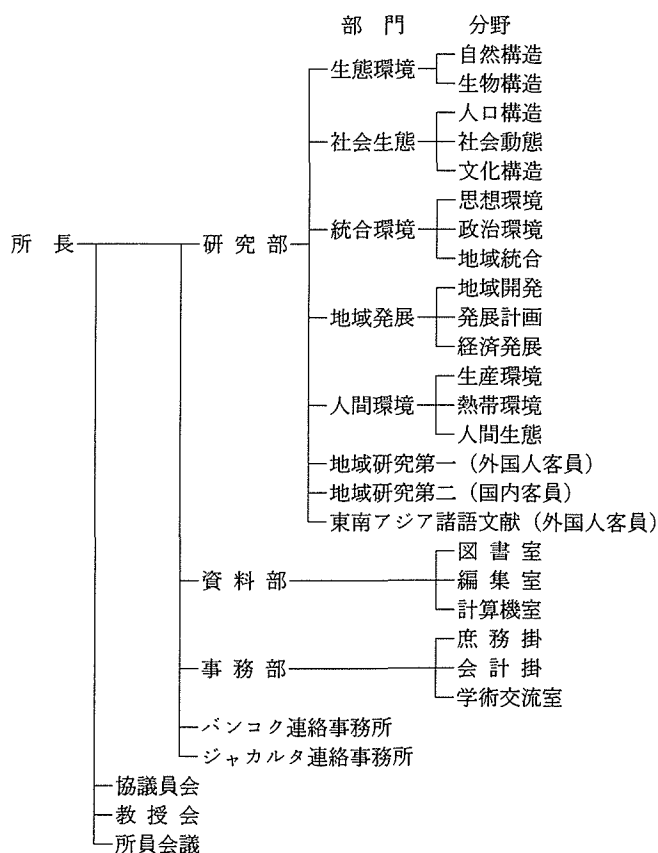
た。それ以来センターでは、この予算を活用して、大学内の「研究担当教官」による東南アジア研究をわずかながらも支援できるようになった。また1978年度から「非常勤講師経費」を認められ、さらに1980年度には地域研究第二（客員）研究部門が設けられたことにより、「学外研究協力者」が積極的に研究参加できる機会を提供できるようになった。また、1986年度には新たな客員部門として、東南アジア諸語文献研究部門が新設された。近年、東南アジア各国の図書資料が精力的に収集されているが、この部門新設によってそれらの整理方法の確立、資料情報の一層の収集のために、東南アジア各国から書誌学者、カタロガーを招くことが可能となった。

1981年以来、センターの旧自然系の二つの研究部門（旧生物構造並びに自然構造部門）が、本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として、大学院教育にたずさわっている。また、1984年に新設された旧水文環境部門もこれに加わった。1989年度の研究部門の編成替えののちも、生態環境、地域発展、および人間環境に配属された同じスタッフが、継続して大学院生の指導にあたっている。

第2章 機構と組織

1. 機構

1989年度現在、東南アジア研究センターは、5大研究部門、3客員研究部門からなる研究部、および資料部、事務部で構成され、東南アジア地域の現地調査を円滑に行うための海外連絡事務所として、タイにバンコク連絡事務所を、インドネシアにジャカルタ連絡事務所を設置している。事務部は庶務・会計の2掛に分かれ、さらに内部組織として学术交流室を設置し、それぞれ業務を担当している。また、本センターの議決機関・協議機関として、協議委員会、教授会、所員会議が設けられている。



2. 協 議 員

協議員会は、センターの運営に関する最高議決機関であり、センターの所長、全教授および助教授1名並びに関係学部・研究所より選任された教授または助教授に対しセンター所長が委嘱した協議員13名によって構成されている。

3. 職 員

センターの職員は、(イ) 研究部、(ロ) 資料部 (図書室, 編集室, 計算機室), (ハ) 事務部からなる。1990年1月 現在の職員は次の通りである。

所 長 教 授 石 井 米 雄

(イ) 研 究 部

生態環境部門

教 授 高 谷 好 一	自然地理学
教 授 古 川 久 雄	熱帯農業環境
助 教 授 山 田 勇	森林生態学
助 手 阿 部 健 一	森林生態学

社会生態部門

教 授 石 井 米 雄	東南アジア史
教 授 坪 内 良 博	社会学, 人口学
教 授 前 田 成 文	文化人類学
助 教 授 桜 井 由 躬 雄	東南アジア史
助 教 授 五 十 嵐 忠 孝	人類生態学

統合環境部門

教 授 矢 野 暢	政治学, 地域研究論
教 授 土 屋 健 治	政治思想論
助 教 授 加 藤 剛	比較社会学
助 手 木 之 内 秀 彦	政治学

地域発展部門

教 授 吉 原 久 仁 夫	経済学
---------------	-----

教授	海田能宏	農村開発論, 熱帯農業水文学
助教授	江崎光男	計量経済学, 経済発展論
助教授	高阪章	国際経済学, 経済発展論

人間環境部門

教授	福井捷朗	農業生態
助教授	田中耕司	作物学
助手	河野泰之	土地・水利用

客員研究部門

地域研究第一 (外国人客員)

朱建栄	国際政治学
Shamsul Amri Baharuddin	政治人類学
Anwar Nasution	財政経済学
Taufik Abdullah	東南アジアのイスラム思想

地域研究第二 (国内客員)

教授	大野徹	ビルマ語, ビルマの政治経済史
助教授	西村重夫	比較教育学

東南アジア諸語文献 (外国人客員)

Chusri Manipluksa	経済史
Achara Jaiyaqam Stone	図書館学

(ロ) 資料部

助手	北野康子 (図書室)	東南アジア書誌学
助手	米沢真理子 (編集室)	
助手	永田好克 (計算機室)	言語情報処理

(ハ) 事務部

事務長	事務官	岸本弘三
庶務掛	掛長	事務官
	事務官	横山重隆
	事務官	山本重夫
	事務官	上村健
	事務官	本田綾子
	事務官	石田達郎

		臨時用務員	二 股 房 子
会 計 掛	掛長	事務官	村 井 豊
	主任	事務官	西 山 幸 夫
		事務官	車 井 俊 也

4. 海外連絡事務所

(イ) バンコク連絡事務所

バンコク連絡事務所（現在地，25/1 Soi 16, Sukhumvit Road, Bangkok, Thailand, 電話 259-6475; Fax 258-1834）は，1963年10月に開設されて以来，6度にわたって駐在地の変更があったが，この間のべ47名が駐在の任に当たった。

(ロ) ジャカルタ連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所（現在地，Jalan Gunawarman, No. 47, Kebayoran Baru, Jakarta, Indonesia, 電話 720-3668; Fax 720-2324）は，1970年10月に開設されて以来，4度にわたって移転があったが，この間のべ29名が駐在の任に当たった。

5. 学内研究担当教官

当センターは，東南アジア研究に関心をもつ学内各学部・研究所の教官に，研究担当教官として参加を委嘱している。1989年度において，これらの学内研究担当教官は129名を数える。

6. 学外研究協力者

当センターは，総合的に地域研究を実施するため，東南アジア地域の研究に関心をもつ全国各地の大学・研究機関等の研究者に，研究協力を仰いでいる。1989年度において，これらの研究協力者は204名である。

7. 大学院教育

1981年以来，センター旧自然系の二つの部門（生物構造並びに自然構造部門）が，本学農学研究科に新設された熱帯農学専攻の協力講座として，大学院教育にたずさわることになり，また1984年以降は新設された水文環境部門もこれに加わった。現在，生態環境，地域発展並びに人間環境部門の7名の教官が講義と研究指導を担当し，東南アジア諸国からの留学生6名を含む13名の専攻大学院生がこれらの協力講座に属している。

第3章 研究活動

1. 調査・研究

(1) 共同研究

センターの調査・研究活動は個別研究と共同研究に大別されるが、共同研究のうち、センターの大部分のスタッフの関与するものは、センター研究計画（プロジェクト）として推進されている。1980年度から1984年度までの5ヵ年計画として、「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」というテーマのもとに、このセンタープロジェクトが遂行され、また1985年度から、第2次5ヵ年計画として「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」が進められている。これら共同研究は、現地調査を中心として行われること、学際的なチームメンバーを組んで行われること、東南アジア地域の外国人研究者の参加を得て行われることを特色としている。

1980年度から開始された「東南アジア世界の形成過程に関する総合的研究」5ヵ年計画では、A計画「熱帯モンスーン・エコシステムにおける農業の発展と地域間交渉の展開」とB計画「小型家産制国家の社会基盤と経済発展」の二つの研究班が編成された。各研究班はすでに報告書、研究論文、研究書の刊行、シンポジウムの開催などによって研究成果を発表してきた。その内容は、『昭和60年度版センター要覧』に詳しく紹介されており、一部は本要覧の第5章「出版目録」の研究報告書シリーズの項にも掲げられているので参照されたい。

また、1985年度から始まった共同研究は、総合テーマを「東南アジア世界の成立と展開に関する文明論的総合研究」とし、四つのクラスターから成り立っている。すなわちクラスターA「外文明と内世界」、クラスターB「文明と国家形成」、クラスターC「文明と生態環境」、クラスターD「文明と経済環境」である。いずれのクラスターも、文部省科学研究費補助金（海外学術調査）あるいはその他の機関の援助を得て精力的な調査を進めてきた。最終年度にあたる本年度までに出版された研究成果の一部は、第5章「出版目録」の研究報告書シリーズの項に掲載されている。なお、1985年以降にこの共同研究のもとで実施された科学研究費補助金による海外学術調査は以下のとおりである。

- 1985年度：「経済計画と開発政策の東南アジア的特性に関する研究」（研究代表者：江崎 光男）
「熱帯島嶼域における人の移動に関わる環境形成過程の研究」（研究代表者：前田 成文）
- 1986年度：「マレー型農耕文化の系譜—内発的展開と外文明からの変容」（研究代表者：高谷 好一）
「経済計画と開発政策の東南アジア的特性に関する研究（調査総括）」（研究代表者：江崎 光男）
- 1987年度：「マレー型農耕文化の系譜—内発的展開と外文明からの変容」（研究代表者：高谷 好一）
「東南アジア型都市文明の形成—外文明からの変容と内発的展開」（研究代表者：坪内 良博）
- 1988年度：「マレー型農耕文化の系譜—内発的展開と外文明からの変容」（研究代表者：高谷 好一）
- 1989年度：「中国における農業生態空間の展開と人の移動に関する歴史的研究」（研究代表者：桜井由躬雄）
「東南アジア型都市文明の形成—外文明からの変容と内発的展開」（研究代表者：坪内 良博）
「環インド洋農耕文化圏の系譜」（研究代表者：高谷 好一）

以上のセンタープロジェクトの他にさまざまな共同研究がセンター内外の研究者を組織して実施されている。日本学術振興会の拠点大学方式による日本・タイ学術交流事業に関わる共同研究，あるいは日本学術振興会や日立国際奨学財団の助成による日本・マレーシアの共同研究「マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容」，国際協力事業団の研究協力事業として実施されているバングラデシュとの共同研究「バングラデシュ農業・農村開発のための基礎調査」などが現在進行中のおもなプロジェクトである。

(2) 個別研究

現在のセンターのスタッフによる個別研究については第4章「研究スタッフ」の紹介の項をご参照願いたい。

(3) 学内研究担当教官等による現地調査

センターには学内研究担当教官等のための現地調査費が文部省の予算措置として認められているが，近年は予算額が限られているために多くの調査計画のうちごく一部が実現されているにすぎない。1987，88年度の実績は以下の通りである。

年度	氏名	所属	調査国	調査内容
1987	小山博滋	理学部	タイ, シンガポール, インドネシア	東南アジアにおける種子植物相の調査研究
1988	中島章子	経済学部	タイ, フィリピン	一次産品貿易に対する先進国側の輸入規制に関する研究調査

2. 国際交流

センターにおける研究活動の推進とその寄与を深めるため、種々の形で外国の研究者、専門家との交流にも力が注がれている。

(1) 外国人研究者の招聘

1975年度より客員研究員の制度をセンターに設け、主として東南アジア諸国の研究者を招聘し、滞在中センター研究スタッフの一員として共同研究あるいは意見の交換を行なっている。そのほかにも随時、外国人研究者の訪問、滞在を受け入れ便宜を計っている。以下は1987年度以降にセンターにおいて研究を行なった外国人研究者のリストである。但し、1987年度のうち、すでに『昭和62年度版センター要覧』に掲載された研究者は除かれている。

A. 外国人客員研究員

Shiro Saito	1987-88	東南アジア研究資料についての書誌	University of Hawaii (U.S.A.)
Azizah Kassim	1987-88	マレーシア農村部における社会変動と文化変容	University of Malaya (マレーシア)
Sardar Muhammad Altaf Hossain	1988	バングラデシュの農業システムに関する研究	Bangladesh Agricultural University (バングラデシュ)
Nai Pan Hla	1988-89	モン仏教文化の研究	Ministry of Culture (ビルマ)
Cielito Flores Habito	1988	フィリピン経済の一般均衡分析	University of the Philippines (フィリピン)
Muhammad Solaiman	1988	バングラデシュの農村開発問題	Bangladesh Academy for Rural Development (バングラデシュ)
Le Van Sang	1988-89	戦後日本の経済発展と対東南アジア経済政策	Vietnam Social Sciences Committee (ベトナム)

Nikita Siberoff	1988-89	東南アジアに関する図書資料の評価研究	Ecole Française d'Extrême-Orient (フランス)
朱 建榮	1988-89	中国の対東南アジア政策と中越関係	上海国際問題研究所 (中華人民共和国)
Shamsul Amri Baharuddin	1988-89	マレーシア農村部における社会変動と文化変容	The National University of Malaysia (マレーシア)
Sungsri Supaporn	1989	図書館における目録作成とコンピュータ化	The National Institute of Development Administration (タイ)
Anwar Nasution	1989	アセアン諸国のマクロ経済運営	University of Indonesia (インドネシア)
Chusri Manipluksa	1989	華僑研究に関する文献調査	Thammasat University (タイ)
Taufik Abdullah	1989-90	インドネシアの社会変動	Indonesian Institute of Sciences (インドネシア)
Achara Jaiyaqam Stone	1989-90	ライブラリー・オートメーションにおけるタイ語資料のローマ字化の問題	United Nations Children's Fund (タイ)

B. その他の外国人学者

Pornpen Hantrakool	1988-89	阮朝ベトナムの社会経済の研究	Silpakorn University (タイ)
Aris Poniman Kertopermono	1988	リモートセンシングによるコヤン地区の評価についての研究	National Coordination Agency for Survey and Mapping (インドネシア)
James W. Morley	1988-89	東及び東南アジア諸国の経済発展の政治的含意	Columbia University (U.S.A.)
Wendy Anne Smith	1989	マレーシアの日系合弁企業における日本経営制度	National University of Malaysia (オーストラリア)
Richard William Arnold Vokes	1989	農業開発 (特にビルマ・インドシナにおける社会主義改革プログラム) の研究	University of Kent (連合王国)
Zainal Kling	1989	マレーシアにおける双系制の研究	University of Malaya (マレーシア)
Mohd. Dahlan Bin Haji Aman	1989	マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容	National University of Malaysia (マレーシア)

(2) 留学生の派遣と受け入れ

センターは東南アジア研究を志す研究者の養成と国際交流の目的で、センターの若手研究者、京都大学の大学院生、およびその他の学生、若手研究者を欧米と東南アジアに留学生として派遣し、あるいは留学の便宜をはかってきた。

また、東南アジア諸国の学生、研究者をセンターの研修員として受け入れ、その指導に当たった。1988～89年度に受け入れた外国人研究生（研修員）は次の通りである。

Hazrat Ali	1988	農業開発（バングラデシュ）
Lutfur Rahman Khan	1988	かんがい工学（バングラデシュ）
Abdullah Al Mamun	1988	雑草学（バングラデシュ）
Vivian Sharman	1988	現代日本史（オーストラリア）

3. シンポジウム・セミナー・研究集会

東南アジア研究に関して内外の研究者とより広く意見を交換するため、これまでに数多くのシンポジウム、セミナー、ワークショップ、研究集会などが、センターの主催または他機関との共催で開かれた。1985年以降、1987年7月までに開かれたものについては、『昭和62年度版センター要覧』に記録されているので、それ以後の最近2年間に開催された主なものについて簡単な趣旨とプログラムを掲げておく。

(1) 日タイセミナー「タイ人の見た日本の近代化

(Thai Perceptions of Japanese Modernization)」（1988年3月25-26日）

日本学術振興会「拠点大学方式による国際学術交流」プログラムによる第2回目のセミナー。今回は、宗教、社会構造、教育、政治、経営、経済などの分野におけるタイ側の以下の報告をもとに、上記課題をめぐって活発な議論が展開された。同会議録は、Yoshihara, K. ed., *Thai Perceptions of Japanese Modernization*, Kuala Lumpur: Falcon Press, 1989, として公刊されている。

Religions and Japanese Modernization	(Kasetsart Univ.) Pensri Kanchanomai
Continuities and Discontinuities of Japanese Social Structure: A Thai View	(Chulalongkorn Univ.) Surichai Wun' Gaeo
Thai Perceptions of Japanese Modernization: Education	(Chulalongkorn Univ.) Paitoon Sinlarat
Political Behavior in Japan and Thailand: A Comparative View	(Thammasat Univ.) Likhit Dhiravegin

(2) マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容 (1988年6月24-25日)

1986年以来、日本学術振興会の一般交流計画、および日立国際奨学財団の援助のもと、上記のセミナー・タイトルと同じ題で、日本とマレーシア研究者の共同研究プロジェクトが実施されている。プロジェクトの日本側参加者の中心機関はセンターであり、マレーシアはマレーシア国民大学である。プロジェクトの最終報告は、1990年に出版予定である。上記セミナーは、一部のプロジェクト参加者の予備調査報告の発表、および東京、大阪在住のマレーシア研究者との意見交換を目的として開催されたものである。

「フロンティア集落としてのマレー社会：ジョホール州のブギス系マレー人の事例」	「ブミブトゥラ政策と経済構造の変容」
前田 成文	(アジ研) 木村 陸男
「スグリ・スンビランの伝統的農耕儀礼：稲作の社会・文化的意味をめぐって」	「農業政策大綱と稲作農業の展開」
加藤 剛	(東農大) 藤本 彰三
Patterns of Landownership and Inheritance in Negeri Sembilan: Some Implications for Development	「ブミブトゥラ政策と小農経済の構造変化」
(センター客員・マラヤ大学) Azizah Kassim	(大東文化大) 堀井 健三
	「インド人茶園労働者の意識変容」
	(東外大) 水島 司
	「コメント」
	(広島大) 山下 晋司
	(八千代国際大) 大木 昌

(3) 東アジア商業システムの成立 (1989年3月16, 29日)

植民地時代の成立以前に、東南アジア世界と外世界を結んで、ひとつの経済世界を構成した経済システムの存在が、最近、世界的に注目されている。東南アジア史も従来の一国史の総和としての記述を改め、外世界との構造的な関係の中で書き直されねばならない。しかし、これまでの欧米の研究ではもっぱら西世界—インド洋世界と東南アジア世界との関係に重心がおかれ、歴史を通じてもっとも東南アジアの経済構造に影響を与え続けた東アジア世界との関係にふれるところが少なかった。本シンポジウムは、東南アジア史の分岐点、いわゆる「商業の時代」の開始期14世紀初めとその収束期17世紀中期の間に、東南アジア世界を東から組み込もうとする東アジア世界の貿易システムにどのような変化があり、どのような構造が生み出されたか、またこの新たな構造が東南アジア世界の経済構造に与えた影響を考えるために行われた。

第1セッション 明初における東アジア貿易 圏の諸問題（3月16日）	「コメント」	山本 達郎
「問題提起：東南アジアにおける海禁令と鄭 和下西洋」	石井 米雄	
「明初の対外政策と海禁令」 （東京国立博物館）大隅 晶子		
「コメント」	藤原利一郎	
「鄭和下西洋の中国史的意味」 （東北大）寺田 隆信		
	第2セッション 16世紀東アジアにおける市 場構造の変化（3月29日）	
	「問題提起：東南アジアの16世紀」桜井由躬雄	
	「16世紀後半から17世紀初期にかけての中国 江南の市場価格と銀」	
		（お茶の水女子大）岸本 美緒
	「東アジアにおける価格革命とメキシコ銀」	
		木村 正弘

(4) Reflections on Malaysian Society under the New Economic Policy (1)

(1989年3月28日)

これは、日本・マレーシアの共同プロジェクト「マレーシア農村部における社会経済変動と文化変容」の一環として開かれたセミナーである。マレーシアの新経済政策の影響を考えるうえでの出発点として、マレーの「基層文化」について、マレーシアの3人の人類学者に話題提供を願った。

The Social Anthropology of the Malays: A Brief Prolegomenon to an Academic Discourse （センター客員・マレーシア国民大学）Shamsul Amri Baharuddin	
The Malays in the Orang Asli World （マレーシア国民大学）Hood Saleh	
The Negeri Sembilan Adat through Time, with Special Reference to Rembau （マレーシア農業大学）Norhalim Hj. Ibrahim	
「コメント」	（センター客員・CNRS, Paris）Nikita Siberoff・（民博）宮本 勝
「総合討論」	

(5) Dutch-Japanese Symposium on the History of Dutch and Japanese Expansion—In Memory of the Late Professor Akira Nagazumi

(1989年10月9-14日)

このシンポジウムは、ライデン大学（Center for the History of European Expansion, Leiden University）の呼びかけに応じて行われたもので、アジア研究協会、亜細亜大学、イーストウェストセミナー、三菱財団の協賛を得て実施された。日本・オランダ両国の研究者が一堂に会して研究の交流をはかり、新しい研究領域や研究方法について活発な討議が行われた。なお、本シンポジウムは、東南アジア研究を通じて両国の学術交流に尽くされた故永積昭東京大学教授を偲んで行われたものでもある。

Welcoming Speech	(Asia Univ.) Shinkichi Eto
Opening Speech	Yoneo Ishii
Rulers and Ruled: Some Remarks on Dutch Colonial Ideology	(Leiden Univ.) C. Fasseur
The Emergence of the Idea of Manchukuo	(Tokyo Univ.) Kenichiro Hirano
The Changing Image of Japan in the Netherlands-Indies	(Utrecht Univ.) E. Locher-Scholten
The Colonial State as a “Rumah Kaca”: Some Observations on Confidential Documents Concerning Japanese Activities in the Dutch East Indies, 1900–1942	Kenji Tsuchiya
Russo-Japanese War and the French Perception of Yellow Peril Concerning Indochina	(Yokohama City Univ.) Masaya Shiraishi
Colonial Warfare in Theory and Practice	(Leiden Univ.) J.A. de Moor
Diplomats of Meiji Japan in the Philippines	(Kagoshima Univ.) Shinzo Hayase
The Colonial Dilemma as Reflected in Dutch Literature	(Leiden Univ.) L. Blusse
Japan’s “Cultural Work for China” and Chinese Nationalism in 1920–30’s	(National Institute for Educational Research) Hiroshi Abe
The Development of Modern Indonesian Literature	(Leiden Univ.) H. Maier
Japanese Education Policy in Indonesia	(Setsunan Univ.) Aiko Kurasawa
The Economic Relations between the Netherlands and the Dutch East Indies	(Leiden Univ.) P.W. Klein
The Process of Economic Development of the Outer Regions of the Dutch East Indies	(Leiden Univ.) Th. Lindblad
The Imperial Visit of the Crown Prince to Taiwan in 1923: How the Japanese Colonial Authorities Managed the Tour	(Tokyo Univ.) Masahiro Wakabayashi
Decolonization	(Utrecht Univ.) J. van Goor
Japanese Overseas Investment and Industrialization in Southeast Asia after the Yen Appreciation	(Osaka City Univ.) Akira Suehiro
Closing Remarks	(The Japan-Netherlands Institute) Willem Rummelink

(6) 日タイセミナー「現代の日タイ関係 (Thai-Japanese Relations Today)」

(1989年10月20–21日)

日本学術振興会「拠点大学方式による国際学術交流」プログラムによる第3回目のセミナー。今回は、現代日本の文化、経済のタイ社会に及ぼした影響を中心として討論が行われた。

第1セッション: Japanese Culture in Thailand

Japanese Literature in Thailand (Thammasat Univ.) Artorn Fungtammasan

Japanese Comics and Animations for Children in Thailand

(Srinakharinwirot Univ.) Sor Wasna Pravalpruk

第2セッション: Political Relations

Japan's Political Role in Southeast Asia	(Thammasat Univ.) Likhit Dhiravegin
第3-5セッション: Economic Relations I-III	
Japan's Economic Assistance to Thailand: 1969-1986	(Thammasat Univ.) Pranee Tinakorn
An Emerging Trade Pattern Since the New Wave of Japanese Direct Investment in Thailand	(Chnlalongkorn Univ.) Suthy Prasartset
Japanese Technology Transfer in Thailand	(Chnlalongkorn Univ.) Prayoon Shiowattana

(7) Reflections on Malaysian Society under the New Economic Policy (2)

(1989年11月13日)

これは、本年3月28日に開催されたセミナーと対をなすものとして企画されたものである。新経済政策下のマレーシア社会の変容について、主としてセンターを短期訪問中のマレーシア専門家に、種々の角度から分析してもらい、討論の材料とした。

Regional Development	(マレーシア国民大学) Mohd. Dahlan
Political Aspect	(センター客員・マレーシア国民大学) Shamsul Amri Baharuddin
Economic Aspect	(ケント大学) Richard Vokes
Cultural Aspect	(マラヤ大学) Zainal Kling
「コメント」	(民博) 宮本 勝・(一橋大) 内堀 基光・加藤 剛・高阪 章・ (センター客員・LIPI) Taufik Abdullah・前田 成文・(郡山女子短大) 津上 誠
「総合討論」	

4. 研究会等

センターでは、比較的大きなシンポジウム・セミナーの他に、各種の研究会が開催されている。テーマを絞った、定期的な「研究例会」、センタースタッフ全員で進行中の共同研究を検討する「プロジェクト報告会」、センターの客員部門の外国人研究員や折々にセンターを訪問する外国人研究者による「特別研究会」などの他にも、共同研究グループ内部での検討会、少人数での定期、不定期の研究会、他の機関との共催による各種研究会（例えば、東南アジアの自然と農業研究会、東南アジア史学会関西例会、漢籍を読む会、東南アジア伝統農業読書会、経済発展研究会）などがあり、常時センター内外の人々の出入りがたえない。

5. 東南アジアセミナー

東南アジアセミナーは、数十人の受講者を募り、東南アジアの自然、文化、社会等について概説し、専門的研究に必要な基礎知識を付与するため、集中的な講義及び演習を行うことを目的とし、1976年から毎年夏に2週間開催されているものである。近年は、年ごとに異なるテーマを決め、かなり専門的な講義も含めており、受講者から好評を得ている。1988、89年度のセミナーのテーマ、講義題目、講師の一覧を掲げておく。

1988年度

テーマ「フロンティアとしての東南アジア」(7月4-17日)

第1部 京都セミナー

- 「フロンティアの構造——都市フロンティア
と農村フロンティア」 坪内 良博
「フロンティア空間としての東南アジア都市」
土屋 健治
「東南アジア都市フロンティアの歴史的展開」
石井 米雄
「二重構造論と東南アジア都市フロンティア」
加藤 剛
「東南アジア都市フロンティア人口論」
坪内 良博
「フロンティア都市国家論」 矢野 暢
「農村フロンティアの創出——二重構造下の
米プランテーション」 海田 能宏
「農村フロンティアの創出——二重構造下の
工芸作物栽培」 田中 耕司
「伝統的東南アジア農村フロンティアの限界
(大陸部)」 (民博) 林 行夫
「伝統的東南アジア農村フロンティアの限界
(島嶼部)」 五十嵐忠孝
「東南アジア経済発展論と人口」 江崎 光男

「東南アジア都市フロンティアと移民論」

吉原久仁夫

〔総合討論〕(その1)

「タイ国農村フロンティアの動態」福井 捷朗

「タイ国都市フロンティアの成立史」

吉川 利治

第2部 タイ国セミナー

The Rise of Bangkok

(タマサート大) Charnvit Kasetsari

A History of Settlement in Thailand

(シラバコーン大) Srisakra Vallibhotama

臨地研修：チャオブラヤ運河網 桜井由躬雄

Urban Communities of Thailand

(チュラロンコーン大) Prasert Yamklifung

Rural Communities of Thailand

(チュラロンコーン大) Chatthip Nartsupha

臨地研修：華人街 坪内 良博

臨地研修：デルタフロンティア 桜井由躬雄

臨地研修：東北タイフロンティア 福井 捷朗

臨地研修：山地フロンティア 河野 泰之

〔総合討論〕(その2)

1989年度

テーマ「海域世界としての東南アジア」(7月3-15日)

「開講にあたって」	石井 米雄	「イスラムの伝播」	坪内 良博
「東南アジアの海域世界に関する文献紹介」		「大航海時代」 (大東文化大)	生田 滋
	北野 康子	〔総合討論〕 I	高谷 好一ほか
〔海域世界の基盤〕		「南海物産と交易」 (上智大)	村井 吉敬
「海域世界概説」	高谷 好一	「植民地化」 (広島大)	植村 泰夫
「モンスーン」 (筑波大)	安成 哲三	「プランテーション」	吉原久仁夫
「熱帯多雨林の世界」	山田 勇	「新経済体制の成立」	吉原久仁夫
「海域と農業」	古川 久雄	〔海域世界と現代〕	
「海のネットワーク」 (東京外大)	家島 彦一	「脱植民地化論」	矢野 暢
「社会圏としての海域世界」	前田 成文	「海域世界と国民国家」	土屋 健治
〔海域世界の成立と展開〕		「海域世界の農村」	前田 成文
「先史時代の東南アジア海域」	古川 久雄	「海域世界と都市——華僑のネットワーク」	
「交易圏の成立」	石井 米雄		(東京大) 濱下 武志
「鄭和の大遠征」 (大阪外大)	桃木 至朗	〔総合討論〕 II	高谷 好一ほか

6. 資料収集および情報処理

東南アジアの研究を深化、発展させるために各種の資料収集がとりわけ重要なことは言うまでもない。1965年に図書室が開設されて以来、東南アジア地域にかかわる専門書を中心に収集を進めてきた結果、1989年3月現在52,131冊(内洋書39,664冊、和漢書12,467冊)を登録し、所蔵するにいたった。研究資料としては次のような特記すべき資料がある。

(1) 現地語資料

1983年度以来、東南アジア諸地域の言語で出版された文献の組織的収集を目指して、特別予算の要求を行なっている。まず最初の5カ年収集計画が終わり、現在第二次10カ年計画の第2年度が進行中である。この計画により、1988年度までに図書33,000冊、マイクロフィッシュ110ケース、マイクロフィルム1,100リールが購入されている。特に、特殊コレクションとして、タイ語文献の「チャラット・コレクション」、およびフィリピンに関する「フォロンダ・コレクション」は世界に誇るコレクションである。また、1986年度からは、東南アジア諸語文献研究部門が新設され、東南アジアから書誌学者やカタログを招聘することができるようになったので、彼らの協力によりこれらの資料の整理もできる

ようになった。「チャラット・コレクション」については3巻よりなる冊子体の目録も完成した。今後もさらに充実した収集を目指している。

(2) マイクロフォーム

1971年以降、「インドネシア関係文献マイクロフィッシュ」の一部を継続的に購入したのを始め、その後機会のあるごとにその充実をはかってきた。この結果、現在までにマイクロフィルム約1,100リール、マイクロフィッシュ約4,000ケースが納められている。このうち、フィルムは、東南アジア諸国統計資料、インドシナ三国近・現代史資料、第2次大戦下の東南アジア関係資料などを含み、フィッシュは、コーネル大学およびオランダ王立言語民族文化研究所が所蔵するインドネシア関係資料を主としている。

(3) 雑誌

センターで登録されている定期刊行物は洋雑誌515、和雑誌218を数える。このうち東南アジアを専門に対象とする雑誌は、創刊号から揃っている *BEFEO* をはじめとして50タイトル以上に及ぶ。東南アジアを含むアジア一般、熱帯、開発に関するタイトルは43点である。このほかすでに刊行されていない雑誌もかなりあり、東南アジア関係では有名な Logan の *JIAEA* や *Djawa* をも含めて18タイトル、アジア関係では、London から出た *Asiatic Quarterly Journal* 及びその後身(1886-1912) や *Mondes Asiatiques* など12タイトルある。これらの地域関係雑誌の多くは欧米発行のものであるが、東南アジアの大学・研究機関の刊行する雑誌も増えてきており、それらはできるだけ収集するように努めている。その他 *Tempo*, *Prisma*, *Tenggara* などのような各国語の週刊誌、総合雑誌、文芸批評誌も定期購読している。

(4) 統計

東南アジア・東アジア諸国の政府出版物を中心に、Yearbook, Handbook, Bulletin, Digest, Journal, Indicators 等、統計に関連する年刊・季刊・月刊の各種定期刊行物が継続的に受け入れられている(約65点)。センサス統計、標本調査、その他各種不定期刊行物も、刊行の都度、できる限り広範囲に収集する努力が続けられている(累計約120点)。分野別にみれば、国民所得、財政、金融、貿易、労働、人口など経済関係の統計が大半を占め、国別にみれば、インドネシアの比重が相対的に高い。

国別統計に加え、国連諸機関や IMF、世界銀行、アジア開発銀行等の国際機関による出版物も、他部局との重複を考慮した上、必要最小限の基本統計および開発途上国関連の統計に限って、定期購入されている（約20点）。

(5) 地図

所有する地図は東南アジア地域を中心に、インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、パキスタン、中国、朝鮮、オーストラリア、太平洋諸島及び日本周辺と、ほぼ南アジアから東アジア全域をおおっている。製作年代も、戦前のものから近年の航空測量によるものまで、多岐にわたっており、現在約2万枚余に及んでいる。この中には、旧陸地測量部による南アジア、東南アジア、東アジアの2万5千分の1、5万分の1地形図等、歴史的にみても貴重なコレクションもある。また、数は少ないが、東南アジア各国の土地利用図、地質図、植生図などの主題図も含まれている。

(6) ランドサット写真

1978年からランドサット写真の収集をはじめ、現在約2,700シーンの写真を蔵している。収集地域は、濃淡はあるものの、東南アジア全域（とくにインドシナ、タイ、フィリピンなどが多い）、インド亜大陸東半分からバングラデシュ全域、南中国の一部及び日本の一部である。可能なかぎり2季節以上のシーンを選んでいる。100万分の1の白黒ポジフィルム（バンド4、5及び7）を中心に集めており、必要に応じてジアゾフィルム現像機でフォールスカラー合成画像をつくり、製版用カメラで拡大カラープリントをつくるなどの方法で利用されている。

(7) 情報処理

計算機室では、研究活動を支援するために、端末装置やパーソナルコンピュータを揃えている。所員や外国人研究者が統計処理や文書処理をするために利用するほか、利用に当たったの相談にも応じている。

現在計算機室で利用可能な機器としては、

- (1) 大型計算機センターの端末2台
- (2) IBM パーソナルコンピュータ3台（うち1台には英数字文書を読み取ってMS-DOS形式の文書ファイルに変換できる光学式文字読み取り装置が接続されてい

る)

(3) NEC パーソナルコンピュータ 3 台

(4) EPSON パーソナルコンピュータ 2 台 (タイ文字を扱える)

がある。

また、計算機室外にも次のような機器があり、利用可能である。

(1) TOSHIBA 携帯型パーソナルコンピュータ 3 台

(2) デジタイザ (図面の入力に用いる)

(3) プロッタ (図面の出力に用いる)

7. 出版

東南アジア研究センターにおけるさまざまな研究活動の成果は、センターが刊行する出版物を通じて発表されている。センターは、1963年以来『東南アジア研究』(年4回刊行)を出版しているほか、和文・英文の叢書、シンポジウムの報告や科学研究費その他各種奨学金などによる研究の報告書等を含む報告書シリーズ、リプリント・シリーズ、ディスカッション・ペーパー等を刊行している。また、1979年度以来、センター・ニューズレターを年2回発行し、研究活動等の広報を行なっている。

『東南アジア研究』は現在27巻3号(通巻110号)になっており、所収論稿は膨大な数にのぼる。第1号から23巻4号までに掲載された論文、研究ノート、書評などの全ての報告は、『東南アジア研究』別冊(23巻5号)に総目録として収録されている。また、リプリント・シリーズ、ディスカッション・ペーパーは『昭和62年度版センター要覧』に、叢書、『東南アジア研究』(24巻1号以降)、及び報告書シリーズは第5章「出版目録」にその一覧を掲げているので、ご参照いただきたい。

第4章 研究スタッフ

東南アジア研究センターの現職研究スタッフの略歴、現在の研究テーマ、主要な研究業績などを紹介する。各研究スタッフは、研究部門では生態環境部門、社会生態部門、統合環境部門、地域発展部門、人間環境部門、地域研究第二客員部門、続いて資料部の順に配列されており、1.最終学歴、2.学位、3.専門分野、4.現在の研究テーマ、5.略歴、6.主要な研究業績の順である。

1. 研究部門

生態環境部門

高谷 好一

1. 京都大学理学部, 1956.
2. 京都大学理学博士, 1963.
3. 自然地理学
4. 東南アジアの自然環境と土地利用
5. 1967年、東南アジア研究センターに助手として採用され、同年、助教授、1975年教授に昇任。1981年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任、現在に至る。

過去の研究・調査は、すべて自然地理と農業を対象としてきたが、主な海外調査には次のものがある。1966~67年タイ中央平原、1968年インド東岸、1968~69年タイ中央平原、1970~71年ミシシッピー、アマゾン、ナイル、チグリス・ユーフラテス等のデルタ、1972年地中海水田地帯、1973年イラワジ・デルタ、1974年東北タイ、1975年ネパール、1976年ビルマ、1978年フィリピン、同年スマトラ、1980~81年スラウェシ、1982~83年スリランカ；1984年スマトラ、1986~87年マダガスカル。

- 6 (1) "Agricultural Transformation in Maningamuwa, a Village in Dry-zone Sri

Lanka," (共著)『東南アジア研究』22(2), 1984.

- (2) 「サゴヤン湿地の生活」『グリーン・パワー』12, 1984.
- (3) 「東南アジアの自然」大林太良(編)『東南アジアの民族と歴史』山川出版社, 1984.
- (4) 「“南島”の農業基盤」渡部忠世・生田滋(編)『南島の稲作文化』法政大学出版局, 1984.
- (5) "Geomorphology, Hydrology and Rice Cultivation in the Chao Phraya Delta of Thailand," *JARQ*, 18(3), 1985.
- (6) 『東南アジアの自然と土地利用』勁草書房, 1985.
- (7) 「東南アジアの生態史的枠組」石井米雄(編)『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.
- (8) 「水田が拓かれるとき」佐原真(編)『豊饒の大地』集英社, 1986.
- (9) "Sago Production at Desa Tanjung, Riau, Sumatra," *Proceedings of 3rd Sago Symposium*, Tokyo, 1986.
- (10) 「熱帯多雨林沿岸部の生活」『東南アジア研究』24(3), 1986.
- (11) 「アジア稲作の生態構造」渡部忠世・福

- 井捷朗 (共編)『稲のアジア史』第1巻,
小学館, 1987.
- (12) 「東南アジア大陸部の稲作」渡部忠世・
高谷好一 (共編)『稲のアジア史』第2巻,
小学館, 1987.
- (13) *Agricultural Development of a Tropical
Delta*, University of Hawaii Press,
Honolulu, 1987.
- (14) 「ロンボク島の高地の伝統稲作」(共編)
『東南アジア研究』26(1), 1988.
- (15) *Madagascar: Perspective from the Malay
World* (編) (文部省科研費報告書), 1988.
- (16) 『水田遺構集成』(編) (文部省科研費報
告書), 1988.
- (17) 『伝統農業フィールドノート集』第一
巻, (共編) 農耕文化研究振興会, 1988.
- (18) 「掛け流し傾斜水田の事例」『農耕の技
術』11, 1988.
- (19) 『マングローブに生きる』(NHK ブッ
クス), 1988.
- (20) 「新生態史観モデルを求めて」『中央公
論』4月号, 1989.

古川 久雄

1. 京都大学農学部, 1963.
2. 京都大学農学博士, 1973.
3. 熱帯農業環境
4. (1) 東南アジア低湿地の利用と保全
(2) アジア伝統農業の生態構造
(3) 熱帯土壌生成
5. 1967年, 京都大学農学部助手に採用され
る。1978年, 東南アジア研究センター助教
授, 1989年同教授に昇任, 現在に至る。1981
年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専
攻助教授, 1989年より同教授を兼任。
1963年以降, 以下の諸国にて水田土壌の調
査を行う; 1963~64年, タイ, 1964~65年,
タイ, マレーシア, 1970年, インドネシア
(ジャワ), 1978年, 韓国。さらに, 1978年,

南スマトラ, 1979年, ジャワ島, 1980~81
年, 南スラウェシ, 1983年, スマトラ東岸低
湿地帯, 1984年, リアウなど, インドネシア
各地で農業景観の変貌等について調査に従
事。1981~82年には IRRI にて, カガヤン溪
谷における多毛作化の調査を行う。また,
1982年には南インド, スリランカでも農業景
観の変貌について調査を実施した。1985年,
1987年, 東北タイの塩類土壌調査。1986年,
マダガスカル, 1988年, メラネシアでマレー
型農耕文化の系譜を研究。1989年, インドネ
シア低湿地調査, 同じくイラン, トルコ乾燥
地帯稲作調査。

6. (1) 「ジャワ島土壌の物理性——殊に硬盤に
ついて」『土壌の物理性』25, 1971.
- (2) 「安満遺跡土層断面の土壌学的検討」『安
満遺跡』京都大学文学部, 1973.
- (3) 「ニューアイルランド島における土壌地
理的観察」『東南アジア研究』11(4), 1974.
- (4) 「近畿地方低地部における土壌の分布則
および分布単位に関する事例研究」『ペド
ロジスト』20, 1976.
- (5) “Chemical, Mineralogical and Micro-
Morphological Properties of Glaebules in
Some Tropical Lowland Soils,” (共著)『東
南アジア研究』14(3), 1976.
- (6) 「土壌中主要12元素の蛍光X線迅速定量
法」『日本土壌肥料学会』49(2), 1978.
- (7) 「南スラウェシの稲作景観」『東南アジ
ア研究』20(1), 1982.
- (8) 「ルソン島の陸稲栽培」『農耕の技術』5,
1983.
- (9) 「踏耕の系譜」(共著)渡部忠世 (編)『南
西諸島農耕における南方的要素』(科学研
究費報告書) 東南アジア研究センター,
1982.
- (10) “Land Use and Soil Catena in Jeneponto
Area of South Sulawesi,” 『東南アジア研
究』20(4), 1983.

- (11) 「フィリピンの農業と農民」『国際農林業協力』6(2), 1983.
- (12) 「愛知川扇状地の土壌層序」I, II (共著)『ペドロジスト』27, 1983; 29, 1985.
- (13) 「東南アジア低湿地の地形」『東南アジア研究』21(4), 1984.
- (14) 「バタンハリ川流域低湿地の農業景観 I. 地形と層序」(共著)「同 II. 農業景観の展開」『東南アジア研究』23(1), 1985; 24(1), 1986.
- (15) “A Study of Floral Composition of Peat Soil in the Lower Batang Hari River Basin of Jambi, Sumatra,” (共著)『東南アジア研究』24(2), 1986.
- (16) 「マダガスカル伝統農業と変革への展望」『国際農林業協力』9(4), 1987.
- (17) “Stratigraphic and Geomorphic Studies of Peat and Giant Podzols in Brunei I. Peat, II. Giant Podzols,”『ペドロジスト』32, 1988.
- (18) 「小区画水田の系譜——オアシス農耕文化の道」(科学研究費報告書) 東南アジア研究センター, 1988.
- (19) 「マダガスカル乾燥地帯の土地利用」『東南アジア研究』26(4), 1989.
- (20) “Salt and Sinkhole—Corrosion as a Principal Factor Governing Topography and Mass Movement in Northeast Thailand—” (共著)『東南アジア研究』27(1), 1989.

山田 勇

1. 京都大学農学部, 1966.
2. 京都大学農学博士, 1979.
3. 森林生態学
4. (1) 東南アジア熱帯多雨林の森林構造
(2) 熱帯樹種の植物季節と生長パターン
(3) 熱帯林の遺伝資源保全
5. 1975年, 東南アジア研究センターに助手として採用される。1980年, 農林水産省関西林

木育種場, 1981年同関東林木育種場室長をへて, 1988年より, 東南アジア研究センター助教授。京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授を兼任。

1965年以降, 以下の海外研究活動を行う。1965年タイ, カンボジア, マレーシアの植物調査, 1968~70年インドネシアの森林調査, 1976年インドネシアの森林調査, 1977年タイ, マレーシア生態調査, 1978年フィリピン生態調査とインドネシア調査, 1979年北米山林調査, 1982, 1983, 1984~87年までブルネイ森林調査, 1988年北米及び中米の森林調査, 1988~89年バブアニューギニア, インドネシアの低湿地調査。

6. (1) 「伐採跡地の植生遷移」(共著)『一次生産の場となる植物群集の比較研究』, 1968.
- (2) 「スギ林の根の現存量について」(共著)『京大演報』40, 1968.
- (3) 「照葉樹林の地下部の構造に関する研究」(共著)『JIBT-PT-水俣42』, 1968.
- (4) 「高立木密度スギ幼齢林の物質生産量に関する若干の検討」(共著)『京大演報』44, 1972.
- (5) “Forest Ecological Studies of the Montane Forest of Mt. Pangrango, West Java(I) Stratification and Floristic Composition of the Montane Rain Forest near Cibodas,”『東南アジア研究』13(3), 1975.
- (6) “同(II) Stratification and Floristic Composition of the Forest Vegetation of the Higher Part of Mt. Pangrango,”『東南アジア研究』13(4), 1976.
- (7) “同(III) Litter Fall of the Tropical Montane Forest near Cibodas,”『東南アジア研究』14(2), 1976.
- (8) “同(IV) Floristic Composition along the Altitude,”『東南アジア研究』15(2), 1977.
- (9) 「熱帯の有用樹種」(共著)熱帯農学研

究センター, 1978.

- (10) "Ecological Study of Mangrove and Swamp Forests in South Sumatra," (共著) in *South Sumatra, Man and Agriculture*, 1980.
- (11) 「西ジャワバングランゴ山山地林における落葉落枝などの季節変化」『東南アジア世界』創文社, 1980.
- (12) 「焼畑における植生遷移と物質循環」『海外学術調査コロキウム』, 1981.
- (13) 「熱帯林の現状からみた林木育種のあり方」『林木の育種』特別号, 1982.
- (14) 「熱帯林木育種の視点」『林木の育種』124, 1982.
- (15) 「東南アジアの低湿地林1. マングローブ」『東南アジア研究』21(2), 1983.
- (16) 「同2. マングローブの分布」『東南アジア研究』21(3), 1983.
- (17) 「同3. 淡水湿地林」『東南アジア研究』21(4), 1984.
- (18) 「同4. 泥炭湿地林」『東南アジア研究』22(2), 1984.
- (19) 「東南アジアの低湿地」(共著) 農林統計協会, 1986.
- (20) *Report on the Forest Research in Negara Brunei Darussalam from 1986 through 1986*, JICA, 1987.

阿部 健一

1. 京都大学農学部, 1984.
2. 京都大学農学修士, 1986.
3. 森林生態学
4. (1) 樹上性節足動物群集の比較研究
(2) 淡水湿地林・マングローブ林の生態
5. 1989年, 東南アジア研究センター助手に採用され, 現在に至る。1981~1983年, サバ州立森林研究所にて, 森林昆虫の個体群動態調査。以後1985年サバ, 1986年マルク, 1988年タイ及びジャワ・バリで樹上性節足動物の調

査を行なった。ほかに1985年と1986年にジャワ島で村落調査に従事し, 1987年海南島, 1988年スマトラ・タイで伝統的森林利用の調査を行なっている。

6. (1) "Plantation Forest Pests in Sabah," FRC Publication No. 8, Sandakan, Sabah, 1983.
- (2) "Comparative Study on Arboreal Arthropod Communities in Contrasting Tropical Forests," 京都大学農学研究科修士論文, 1987.
- (3) "Reproductive Behavior of the Albizia Borer, *Xystrocera festiva* (Coleoptera: Cerambycidae)" (共著), in *Studies of the Behavior and the Life-cycle Strategies of Arboreal Insects in the Humid Tropics*, Kyoto University, 1987.
- (4) 「ブカラランガン内での農業生産」『東南アジアにおける「地域農業」の開発に関する研究』総合研究開発機構, 1987.
- (5) "Arboreal Arthropod Community of Mangrove Forest in Halmahera, Indonesia," in *Biological System of Mangrove, a Report of East Indonesian Mangrove Expedition*, Ehime University, 1988.

社会生態部門

石井 米雄

1. 東京外国語大学シャム語学科中退, 1955.
2. 京都大学法学博士, 1980.
3. 東南アジア史
4. (1) 東南アジアにおける王権と仏教
(2) 『三印法典』の研究
5. 1955年, 外務省入省(アジア局, 在タイ大使館勤務)。1965年, 京都大学助教授(東南アジア研究センター), 1967年京都大学教授(同), 1985年東南アジア研究センター所長, 現在に至る。1965年以来, タイ, インドネシ

- ア、インド等で現地調査に従事。1973～75年、ロンドン大学SOASに研究留学。
6. (1) 『戒律の救い——小乗仏教』〔世界の宗教〕淡交社、1969.
 - (2) 『タイ国——ひとつの稲作社会』(編著) 創文社、1975.
 - (3) 『上座部仏教の政治社会学——国教の構造』創文社、1975.
 - (4) 『インドシナ文明の世界』〔世界の歴史〕講談社、1977.
 - (5) 「ボウリング・ハリス・ド=モンティニー三条約のタイ語テキストに関する覚え書き」『山本達郎博士古稀記念・東南アジア・インドの社会と文化』山川出版社、1980.
 - (6) 「タイの伝統法——『三印法典』の性格をめぐって」『国立民族学博物館研究報告』8(1), 1983.
 - (7) 「〈ボンサーワダーン〉(王朝年代記) についての一考察」『東南アジア研究』22(2), 1984.
 - (8) 「ラタナコーシン朝初期における王権とサンガ——『三印法典』「サンガ布告」を中心に」『東南アジア研究』22(3), 1984.
 - (9) “Modern Buddhism in Indonesia”, in G. Dhammapala *et al.* (eds.), *Buddhist Studies in Honour of Hammalava Saddhatissa, Nugegoda*, 1984.
 - (10) 『差異の事件誌——異文化認識の相克』(編著) 巖南堂、1984.
 - (11) 「『29の訴訟項目』(Ekūnatimsā Mūlagati Vivāda) について——インド古代法「パリー化」の一事例」『東南アジア研究』23(2), 1985.
 - (12) 『東南アジア世界の形成』(共著)《ビジュアル版》世界の歴史⑩ 講談社、1985.
 - (13) “The Thai Thammasat (with a note on the Lao Thammasat),” in M.B. Hooker (ed.), *The Laws of South East Asia*, Volume 1. *The Pre-Modern Texts*, Butterworth & Co. (Asia), Singapore, 1986.
 - (14) 「『キッチャースキット』考——19世紀シヤムの知識人とキリスト教」『東洋文化』67, 1987.
 - (15) 「『三印法典』本「ブラ・タマサート」の構成」『東方学会創立四十周年記念東方学論集』東方学会、1987.
 - (16) 「『三印法典』の構成について」『東方学』74, 1987.
 - (17) 『日タイ交流六〇〇年史』(共著) 講談社、1987.
 - (18) “Thai-Japanese Relations in the Pre-modern Period,” in Chaiwat Khamchoo & E.B. Reynolds (eds.), *Thai-Japanese Relations in Historical Perspective*, Chulalongkorn University, Bangkok, 1988.
 - (19) *A Glossarial Index of the Sukhothai Inscriptions*, (with O. Akagi, N. Endo, Nidhi Aewsrivongse, Aroonrut Wichienkiew) Amarin Publication, Bangkok, 1989.
 - (20) “A Brief Reflection upon the Law of the Three Seals,” in *Promdaeng Haeng Khwamru*, ThaiKhadi Research Institute, Thammasat University, Bangkok, 1989.

坪内 良博

1. 京都大学文学部、1960.
2. 京都大学文学博士、1970.
3. 社会学・人口学
4. 東南アジアの社会と人口
5. 1966年、東南アジア研究センター助手。1970年、同助教授、1982年、同教授。
1968～69年、プリンストン大学などで人口学に関する研修。東南アジア各地(とくにマレーシアおよびインドネシア)において現地調査に従事する。
6. (1) 『離婚——比較社会学的研究』(共著) 創文社、1970.

- (2) 「東海岸マレー農民における土地と居住」『東南アジア研究』10(1), 1972.
- (3) 「マレーシア東海岸の天水田地域における稲作」『東南アジア研究』10(2), 1972.
- (4) 「東海岸マレー農民における結婚と離婚」『東南アジア研究』10(3), 1972.
- (5) 「マレーシア東海岸の村落住民の収入と収入源——カンボン・ガロにおけるケース・スタディー」『東南アジア研究』10(4), 1973.
- (6) 「クランタンの農村におけるポンド（寄宿宗教塾）」『東南アジア研究』11(2), 1973.
- (7) 「マレー農村におけるイスラームと離婚」『東南アジア研究』13(1), 1975.
- (8) “Marriage and Divorce among Malay Peasants in Kelantan,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (9) 『マレー農村の研究』（共編著）創文社, 1976.
- (10) “Islam and Divorce among Malay Peasants,” in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1977.
- (11) 『核家族再考——マレー人の家族圏』（共著）弘文堂, 1977.
- (12) 「日本人の目からみたインドネシア人勤労者」『東南アジア研究』15(2), 1977.
- (13) 「コムリン川流域およびムン川下流部における集落形成史」『東南アジア研究』17(3), 1979.
- (14) *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*, (共著) University Press of Hawaii, Honolulu, 1979.
- (15) “On the High Population Growth Rates of the Past in South Sumatra,” (共著) 『東南アジア研究』19(1), 1981.
- (16) “Traditional Migration Patterns in Southeast Asia and Their Survival,” *Journal of Population Studies (Jinkogaku Kenkyu)*, 6, 1983.
- (17) 「東南アジアにおける人口と伝統的基礎社会の性格——島嶼部を中心として」『東南アジア研究』21(1), 1983.
- (18) 「東南アジア島嶼部における『小国』の存在形態に関するノート」『東南アジア研究』22(1), 1984.
- (19) 『東南アジア人口民族誌』勁草書房, 1986.
- (20) 「マレー農村人口の変動的な性格について——クランタン・ガロック村開拓後史」『東南アジア研究』25(3), 1987.

前田 成文

1. 京都大学文学部, 1963.
2. シカゴ大学 Ph.D. (人類学), 1974.
3. 文化人類学
4. (1) マレー世界の社会と文化（とくに種族間の共生をめぐる）
(2) 社会システムと生活世界
5. 1964年、マラヤ大学マレー学科に留学。1965年初頭に Kedah 州農村の臨地研究を3ヵ月行なった後、同年7月から翌年5月までジョホール州でオラン・フルの民族誌的研究に従事する。1967年から2ヵ年間、マラヤ大学において日本学講座の講師を勤めた後、1969年にセンターに奉職。1971年から1年間、マラカ州の農村で主として社会経済的なデータに基づいて、家族、世界観の研究を行う。1974年から75年にかけて南ベトナムのメコン・デルタの農村のリーダーシップの調査。同年11月から翌年3月までインドネシア、南スラウェシの調査。南スラウェシの調査は1980年に再び開始し、1984年まで3次にわたって、主として非ムスリム教徒も住む平地村落で調査を継続する。その他、リアウ、

- スリランカ, 南インド, マダガスカル, メラネシアでも短期間のサーベイを行う。1977年から79年にかけてジャカルタの日本大使館に勤務。
- 6.(1) 「マレー半島におけるジャクンの親族名称」『東南アジア研究』4(5), 1967.
 - (2) 「マラヤにおけるジャクンの家族構成の特質」『東南アジア研究』5(3), 1967.
 - (3) 「ジャクン (オラン・フル) の結婚と離婚」『東南アジア研究』6(4), 1969.
 - (4) 「マラヤ原住民の経済生活」『アジア経済』10(5), 1969.
 - (5) 「ジャクン・コミュニティの社会秩序」『東南アジア研究』7(3), 1969.
 - (6) 「双系的親族組織におけるイトコ婚」『東南アジア研究』10(4), 1973.
 - (7) “The Aftereffects of Hajj and Kaan Buat,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
 - (8) “Family Circle, Community and Nation in Malaysia,” *Current Anthropology*, 16, 1975.
 - (9) 『マレー農村の研究』(共編著) 創文社, 1976.
 - (10) 「コミュニティ宗教におけるシンボリズム」『東南アジア研究』14(3), 1976.
 - (11) 『核家族再考——マレー人の家族圏』(共著) 弘文堂, 1977.
 - (12) “The Malay Family as a Social Circle,” 『東南アジア研究』16(2), 1978.
 - (13) 「屋敷地共住集団と家族圏」(共著) 『東南アジア研究』18(2), 1980.
 - (14) 「生活環境と社会組織——南スラウェシの一山村誌」『東南アジア研究』20(1), 1982.
 - (15) 「稲作儀礼雑観」渡部忠世(編) 『南西諸島農耕における南方的要素』京都大学東南アジア研究センター, 1982.
 - (16) “A Melakan Farming Village,” in P. Wheatley and K.S. Sandhu (eds.), *Melaka: The Transformation of a Malay Capital c. 1400-1980*, Oxford University Press, 1983.
 - (17) 「マレーシアの家族」原ひろ子(編) 『諸文化と家族』至文堂, 1983.
 - (18) 「差異の文化論」石井米雄(編) 『差異の事件誌——植民地時代の異文化認識の相克』巖南堂, 1984.
 - (19) 「世帯と親族」石井米雄(編) 『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.
 - (20) 『東南アジアの組織原理』勁草書房, 1989.
- 桜井由躬雄
1. 東京大学文学部, 1967.
 2. 東京大学文学博士, 1989.
 3. 東南アジア史
 4. 清仏戦争後の対仏抵抗
 5. 1977年, 東南アジア研究センター助手に採用される。1983年, 同助教授に昇任, 現在に至る。
東・東南アジアの土地制度・農業開発・反植民地運動などに関する現地調査・資料収集のため, 1977年タイ(1ヵ月), 1978年タイ他3ヵ国(10ヵ月), 1980~81年インドネシア他2ヵ国(2ヵ月), 1982年インド・スリランカ(3ヵ月), 1983年フランス(2ヵ月), 1985~87年ベトナム(2年)などに赴いた。
- 6.(1) 「永盛均田例の周辺」『東洋学報』56(2・3・4), 1975.
 - (2) 「ヴェトナム中世社教の研究」『東南アジア——歴史と文化』5, 1975.
 - (3) 「永盛均田例の研究」『史学雑誌』85(7), 1976.
 - (4) 「19世紀初期ヴェトナム村落内土地占有状況の分析——嘉隆4年山南下鎮地簿を中心として」『東南アジア——歴史と文化』6, 1976.
 - (5) 「嘉隆均田例の分析」『東南アジア研究』

- 14(4), 1977.
- (6) 『東南アジア現代史Ⅲ ヴェトナム・カンボジア・ラオス』(共著) 山川出版社, 1977.
- (7) 「19世紀初期ヴェトナム村落内土地占有状況の分析再論」『東南アジア——歴史と文化』7, 1977.
- (8) 「黎朝下ヴェトナム村落における漂散農民の分析(I)」上・下, 『東南アジア研究』15(4); 16(1), 1978.
- (9) 「維田問題の整理——古代紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(1), 1979.
- (10) 「10世紀紅河デルタ開拓試論」『東南アジア研究』17(4), 1980.
- (11) 「李朝期(1010-1225)紅河デルタ開拓試論——デルタ開拓における農学的適応の終末」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (12) 「明命均田例の周辺」『東洋史研究』39(3), 1980.
- (13) 「糧田制の研究——19世紀ヴェトナムにおける兵士職田の成立」『南方文化』8, 1981.
- (14) 「18世紀および19世紀初期紅河デルタにおける流散村落の研究」『東南アジア研究』20(2), 1982.
- (15) 『中国江南の稲作文化——その学際的研究』(共編) 日本放送出版協会, 1984.
- (16) 「ベトナム(近・現代)」島田虔次他(編) 『アジア歴史研究入門 5』 同朋舎, 1984.
- (17) 『東南アジア世界の形成』(共著) 講談社, 1985.
- (18) “Number of Villages(Xa) in Medieval Viet Nam,” *Social Science*, V, Hanoi, 1986.
- (19) 「紅河デルタの開拓」渡部忠世・高谷好一(共編) 『稲のアジア史』第2巻, 小学館, 1987.
- (20) 『ベトナム村落の形成』 創文社, 1987.

五十嵐忠孝

1. 東京大学医学部, 1970.
2. 東京大学保健学修士, 1972.
3. 人類生態学
- 4.(1) 小人口学
(2) 栄養と生業機構
5. 1975年, 東京大学医学部保健学科助手に採用される。1982年, 群馬大学医学部助教授に昇任, 1984年, 東南アジア研究センターに配置換えとなり, 現在に至る。
1970~73年, トカラ列島でヒトの個体群生態学的調査, 1974~75年, 韓国の一農村で人口移動の調査, 1978年以降, インドネシア西ジャワ州のスンダ人村落で小人口学, 栄養と生業機構に関する調査などに従事する。
- 6.(1) “Change in Daily Activity Patterns during the Ramadan in an Islamic Society,” in *Proceedings of the Second International Symposium on Asian Studies, 1980*, Vol. II, Asian Research Service, Hong Kong, 1981.
(2) 「個人年齢の推定方法に関する若干の覚え書き——西部ジャワ・スンダ人村落での調査から」『東南アジア研究』20(2), 1982.
(3) “Seeking the Dates of Birth of Children: An Age-Estimation Method that Combines Dental Age with Indigenously Expressed “Time of Birth” for Use in Priangan, West Java,” in *Proceedings of the Fourth International Symposium on Asian Studies, 1982*, Vol. III, Asian Research Service, Hong Kong, 1983.
(4) 「漁撈と農耕の比較生態——西部ジャワ・プリアガン地方での調査から」大塚柳太郎(編) 『生態人類学』至文堂, 1983.
(5) “Locality-Finding in Relation to Fishing Activity at Sea,” in Béla Gunda (ed.), *The Fishing Culture of the World: Studies in*

Ethnology, Cultural Ecology and Folklore,
Akadémiai Kiadó, Budapest, 1984.

- (6) 『インドネシア人類生態学調査集成』(共編) 日産科学振興財団, 1984.
- (7) 「西ジャワ・ブリアガン高地における水稲耕作——若干の人類生態学的観察」『農耕の技術』7, 1984.
- (8) 「西ジャワ・ブリアガン高地の食糧資源と人口」小石秀夫・鈴木継美(編)『栄養生態学』恒和出版, 1984.
- (9) 「インドネシアの人口, 出生, 死亡」『医学のあゆみ』132, 1985.
- (10) *Human Ecological Survey in Rural West Java in 1978 to 1982: A Project Report*, (共編著) Nissan Science Foundation, Tokyo, 1985.
- (11) “Some Biosocial Variables That May Account for Fertility Patterns in the Sundanese Society,” in *Health Ecological Survey in Indonesia in 1983/84*, Part 1, Department of Public Health, Gunma University, Maebashi, 1985.
- (12) “Biosocial Variables Affecting Sundanese Fertility, West Java,” *Man and Culture in Oceania*, 3, 1987.

統合環境部門

矢野 暢

1. 京都大学法学部, 1959.
2. 京都大学法学博士, 1970.
3. 政治学, 地域研究論
4. (1) タイ国の現代政治史
(2) 東南アジアの国家構造
(3) 近代日本の南方関与
5. 1966~68年, 大阪外国語大学タイ語科専任講師としてタイ語およびタイ国事情を講義。1968~72年, 日本外交史講座の助教授として広島大学政経学部在職する。その間, 1968

~69年, 米国ジョージ・ワシントン大学客員準教授として, 東南アジア国際関係の研究に従事する。1972年, 東南アジア研究センターに助教授として着任, 1978年, 同教授に昇任し, 現在に至る。

1964~66年, タイ国南部のタイ・イスラム農村に単身定着調査を行なったのはじめ, タイ国を中心に, 東南アジアの各地で, 今日まで数次にわたる現地調査を行なっている。そして, 独創的な国家論を中心に, 生態学的な政治学を開拓し, 旧来の政治学に新しい次元をひらいている。また, 体系的な東南アジア学の構築にも関心をもち, 「地域」認識のパラダイムを求めて, 理論的模索を重ねている。

6. (1) 「南タイの土地所有——タイ・イスラム村落におけるケース・スタディ」『東南アジア研究』4(5), 1967.
- (2) 『タイ・ビルマ現代政治史研究(付録「タイ・ビルマ現代政治史史料集纂」)』創文社, 1968.
- (3) “Sarit and Thailand’s Pro-American Policy,” *The Developing Economies*, 6(3), 1968.
- (4) 「南タイにおける通婚圏の形成」『東南アジア研究』7(4), 1970.
- (5) 「南タイ農村の村外居住体験について」『東南アジア研究』8(2), 1970.
- (6) 「南タイ農村の経済生活」『東南アジア研究』8(4), 1971.
- (7) 「タイ国の政治指導の特性——サリット『革命団布告』を主題に」『アジア経済』12(7), 1971.
- (8) 「南タイ農村の発展史的把握(一)——派生村形成の社会過程」『東南アジア研究』12(1), 1974.
- (9) 『「南進」の系譜』中央公論社(中公新書), 1975.
- (10) 「タイにおける『革命団布告』の政治機

能——73年『10月政変』の背景についての一考察』『東南アジア研究』12(4), 1975.

- (11) 『日本の南洋史観』中央公論社(中公新書), 1979.
- (12) 『東南アジア世界の論理』中央公論社(中公叢書), 1980.
- (13) 「国民形成への『文化主義』的接近」年報政治学『国民国家の形成と政治文化』1978年度版, 岩波書店, 1980.
- (14) 「タイ国における『郡長』の政治機能——『ラーチャカーン』の政治的本質との関連で」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (15) 『南北問題の政治学』中央公論社(中公新書), 1982.
- (16) 「地域研究と政治学」年報政治学『政治学と隣接諸科学の間』1980年度版, 岩波書店, 1982.
- (17) 『東南アジア世界の構図』日本放送出版協会(NHKブックス), 1984.
- (18) 『冷戦と東南アジア』中央公論社, 1986.
- (19) 『講座政治学Ⅳ 地域研究』(編著)三嶺書房, 1987.
- (20) 「『介入体制』としてのタイ国政治」『東南アジア研究』25(3), 1987.

土屋 健治

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. 東京大学社会学博士, 1981.
3. 政治思想論
4. (1) インドネシア政治論
(2) ジャワ文化史論
5. 1968~70年, インドネシア共和国ガジャ・マダ大学に留学。1973年, 千葉大学人文学部助手に採用される。1974年, 東南アジア研究センター助手に配置換, 1978年, 助教授, 1988年, 教授に昇任, 現在に至る。
1975年, インドネシア国立博物館(ジャカルタ), タマン・シスワ図書館(ジョクジャカルタ)等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1975~77年, ライデン大学, 王立言語民族文化研究所(ライデン), 旧植民地省文書館等にてインドネシアナショナリズムに関する研究に従事。1979~80年, インドネシア大学客員教授として「インドネシア政治思想史論」および「東南アジア社会論」の講義を行う。1982年, コーネル大学東南アジアプログラムの客員研究員としてジャワ文化に関する研究に従事。1983年, タイ, フィリピン, インドネシア, 1984~85年, インドネシア, 1986~87年, タイ, 1988年, インド, インドネシア, 1989年, モロッコ, インドネシアにおいて現代国家論に関する調査を行う。

6. (1) “Fungsi Taman Siswa Dalam Pergerakan Nasional Indonesia Khususnya Dalam Tahun Tigapuluhan,” *Pusara*, 40(7), 1970.
(2) 「スカルノとハッタの論争」『東南アジア研究』9(1), 1971.
(3) 「サミン運動とインドネシア民族主義」『東南アジア研究』9(2), 1971.
(4) 「タマン・シスワの研究——初期の活動に関する一考察」『東洋文化研究所紀要』62, 1974.
(5) 「スカルノ研究の視角についての一試論——ジョン・レグ著『スカルノ伝』を手掛りとして」『アジア経済』15(12), 1974.
(6) “The Taman Siswa Movement—Its Early Eight Years and Javanese Background,” *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
(7) “Perjuangan Taman Siswa Dalam Pendidikan Nasional,” *Journal Penelitian Social*, 4(8), 1980.
(8) 「南方関与の理論的枠組について」衛藤藩吉(編)『日本をめぐる文化摩擦』弘文堂, 1980.
(9) 『インドネシア民族主義研究——タマン・シスワの成立と展開』創文社, 1982.

- (10) 「インドネシアの開発政策と政治的安定」『海外事情』30(10), 1982.
- (11) 「インドネシアにおける政治と言語——バ・スロ事件の文化論的考察」『国際政治』74, 1983.
- (12) 「ジョクジャカルタ——中部ジャワにおけるくみやこの成立と展開」『東南アジア研究』21(1), 1983.
- (13) 「カルティニの心象風景」『東南アジア研究』22(1), 1984.
- (14) 「19世紀ジャワ文化論序説——ジャワ学とロンゴワルシトの時代」土屋健治・白石隆(編)『東南アジアの政治と文化』東京大学出版会, 1984.
- (15) 「政治と言語」矢野暢(編)『講座政治学Ⅳ 地域研究』三嶺書房, 1987.
- (16) 「文化統合と国民形成——インドネシア語市場圏の展開をめぐる」『国際政治』84, 1987.
- (17) 「『ニヤイ・ダシマ物語』論」『東洋文化』67, 1987.
- (18) 「タマン・シスワとインドネシア現代政治」『東南アジア研究』24(3), 1987.
- (19) *Democracy and Leadership: The Rise of the Taman Siswa Movement in Indonesia* (Translated by Peter Hawkes), University of Hawaii Press, 1988.
- (20) 「開発の時代の『国学』——インドネシアのパンチャシラ論」岡部達味(編)『ASEANにおける国民統合と地域統合』日本国際問題研究所, 1989.

加藤 剛

1. 一橋大学社会学部, 1966.
2. コーネル大学 Ph.D., 1977.
3. 比較社会学
4. (1) 植民地主義との遭遇：聞き取り法に基づく村落レベルの社会史の再構築
- (2) 東南アジア都市の生活世界：歴史からの

接近

- (3) ミナンカバウ母系制社会の変容：西スマトラ、クアンタン、ヌグリ・スンビランの比較研究
5. 1977年、上智大学外国語学部比較文化学科講師に採用される。1979年、東南アジア研究センター助教授に採用され、現在に至る。
- 1972～73年、インドネシア・西スマトラ州においてミナンカバウ社会の変容に関する調査、1973～74年、南部スマトラにおいて地域開発における伝統的村落指導者の役割に関する調査、1980～81年、ジャカルタ都市移住民の調査、1982年、スマトラ・リアウ州においてエコロジーと種族的環境適応に関する調査、1984～85年、リアウ州・クアンタンにおいて、1986～87年、1988年、1988～89年、マレーシアのヌグリ・スンビラン州において、それぞれ村落社会史に関する調査を行う。
6. (1) "Village Administration," in E.E. Lipinsky and T. Kato (eds.), *Land Tenure and Village Administration in Jambi and South Sumatra*, Sumatra Regional Planning Studies, 1975.
- (2) "Change and Continuity in the Minangkabau Matrilineal System" *Indonesia*, 28 (April), 1978.
- (3) 「西部スマトラ・ミナンカバウの社会構造」早稲田大学社会科学研究所(編)『インドネシア』早稲田大学出版局, 1979.
- (4) "Rantau Pariaman: The World of Minangkabau Coastal Merchants in the Nineteenth Century," *Journal of Asian Studies*, 39(4), 1980.
- (5) 「矛と盾? ——ミナンカバウ社会にみるイスラームと母系制の関係について」『東南アジア研究』18(2), 1980.
- (6) *Matriliny and Migration: Evolving Minangkabau Traditions in Indonesia*, Cornell University Press, 1982.

- (7) 「都市と移住民：ジャカルタ在住ミナンカバウの事例」『東南アジア研究』21(2), 1983.
- (8) 「ミナンカバウ社会について」ムハマッド・ラジャブ（著），加藤剛（訳）『スマトラの村の思い出』めこん，1983.
- (9) “Typology of Cultural and Ecological Diversity in Riau, Sumatra,” in N. Maeda & Mattulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (10) 「インドネシアの民俗と文化」『国際農業協力』8(2), 1985.
- (11) 「インドネシアの都市にみる種族結合：ネットワークと同郷会」『東南アジア研究』23(4), 1986.
- (12) 「都市のなかの『むら』——ジャカルタにみる婚姻形態——」石井米雄（編）『東南アジア世界の構造と変容』創文社，1986.
- (13) “The Koto is Created with Consensus: Adat Community and Administrative Reorganization in Kuantan, Riau,” in T. Kato, M. Lutfi & N. Maeda (eds.), *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*, CSEAS, Kyoto Univ., 1986.
- (14) “Cities and Migrants in Southeast Asia: A Case Study of Minangkabau Migrants in Jakarta,” *Contributions to Southeast Asian Ethnography*, 6, 1987.
- (15) “Agricultural Rituals and Rice Cultivation in Negeri Sembilan: A Reconstruction from Oral History,” *SEAS* 26(2), 1988.
- (16) “Different Fields, Similar Locusts: Adat Communities and the Village Law of 1979 in Indonesia,” *Indonesia* 47 (April), 1989.
- (17) *Nasab Ibu dan Merantau: Tradisi Minangkabau Yang Berterusan di Indonesia* (trans. by Azizan Kassim), Dewan Bahasa dan Pustaka, 1989.

木之内秀彦

1. 京都大学法学部，1984.
2. 京都大学法学修士，1986.
3. 政治学
4. ベトナム戦争
5. 1987年，東南アジア研究センター助手に採用され，現在に至る。1989年8月から11月にかけて，タイにおいて第二次世界対戦後の東南アジア大陸部諸国における政治発展と革命運動に関する現地調査に従事した。
- 6.(1) 『『政治的軍隊』と『非政治的職業軍隊』——フランス革命初期軍隊問題の一考察(1)』『法学論叢』122(1), 1987.
- (2) 『『政治的軍隊』と『非政治的職業軍隊』——フランス革命初期軍隊問題の一考察(2)』『法学論叢』123(2), 1988.

地域発展部門

吉原久仁夫

1. カリフォルニア大学（バークレー校），1966.
2. カリフォルニア大学 Ph.D.（経済学），1966.
3. 経済学
4. 東南アジアにおける資本主義世界
5. ミンガン大学経済学部助教授(1966～69年)を経て，1969年，東南アジア研究センター助手として着任，1971年，同助教授，1987年，同教授に昇任，現在に至る。
この間，1970～71年客員助教授として，および1981～82年客員教授としてフィリピン大学経済学部で経済発展論を講義。1973～74年には客員フェローとしてシンガポール大学経済学部，1976～77年に客員助教授としてスタンフォード大学経済学部，および1982～83年に客員教授としてタマサート大学経済学部，1987年マラヤ大学経済学部で経済発展論を講

義する。

6. (1) "Demand Functions: An Application to the Japanese Expenditure Pattern," *Econometrica*, 37(2), 1969.
- (2) "Long-term Models of the Japanese Economy," 『季刊理論経済学』20(3), 1969.
- (3) "The Problem of Accounting for Productivity Change in the Construction Price Index," (共著) *Journal of the American Statistical Association*, 66(333), 1971.
- (4) "Productivity Change in the Japanese Economy, 1905-65," (共著) 『季刊理論経済学』23(1), 1972.
- (5) 「シンガポールの工業化と米系企業」『東南アジア研究』12(4), 1975.
- (6) 「シンガポールの工業化における外資系企業と民族系企業」『東南アジア研究』13(2), 1975.
- (7) *Foreign Investment and Domestic Response: A Study of Singapore's Industrialization*, Eastern Universities Press, Singapore, 1976.
- (8) *Japanese Investment in Southeast Asia*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1978.
- (9) 「野村財閥の南方事業」『東南アジア研究』19(3), 1981.
- (10) *Sogo Shosha: The Vanguard of the Japanese Economy*, Oxford University Press, Tokyo, 1982.
- (11) "Business Groups in Thailand," (共著) Research Notes and Discussion Paper No. 41 (Institute of Southeast Asian Studies, Singapore), 1983.
- (12) "Indigenous Entrepreneurs in the ASEAN Countries," *Singapore Economic Review*, 29(2), 1984.
- (13) *Japanese Economic Development: A Short Introduction*, 2nd ed., Oxford University Press, Tokyo, 1985.
- (14) *Philippine Industrialization: Foreign and Domestic Capital*, Oxford University Press, Singapore, 1985.
- (15) "The Problem of Continuity in Chinese Businesses in Southeast Asia," 『東南アジア研究』25(3), 1987.
- (16) *The Rise of Ersatz Capitalism in Southeast Asia*, Oxford University Press, Singapore, 1988.
- (17) *Oei Tiong Ham Concern: The First Business Empire in Southeast Asia*, (編) CSEAS, 1989.
- (18) *Thai Perceptions of Japanese Modernization*, (編) Kuala Lumpur, Falcon Press, 1989.
- (19) "Thailand: Industrialization without Development," (共著) *East Asian Cultural Studies*, 28 (March), 1989.
- (20) *Japan in Thailand*, (編) Kuala Lumpur, Falcon Press, 1989.

海田 能宏

1. 京都大学農学部, 1962.
2. 京都大学農学博士, 1970.
3. 農村開発論, 熱帯農業水文学
4. (1) アジア農村開発論
(2) 農業発展の水文環境的基盤
5. 1967年, 京都大学助手(農学部)に採用され, 1969年, 東南アジア研究センターへ配置換。1974年同助教授, 1984年同教授に昇任。同年から京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻教授を兼任。
1969年以降, 水文環境, 農業水利, 農業生態, 農村開発などに関する現地調査をつづけており, それらは, 1969~70年タイ(約10ヵ月), 1973年ビルマ(1ヵ月), 1973年タイ・インドネシア(2ヵ月), 1974年ベトナム・メコンデルタ(2回3ヵ月), 1978年インド

- ネシアの南スマトラ（2ヵ月）、1979年フィリピンのルソン平野（2ヵ月）、1980年フィリピンのルソン平野など（1ヵ月）、1980、81年タイ（2回2ヵ月）、1981年東北タイ村落定着調査（5ヵ月）、1983～84年再び東北タイ村落定着（13ヵ月）、1985年以来ベンガラデシュ農業・農村開発基礎調査（9回計10ヵ月）などである。また、1971～72年アメリカ合衆国カリフォルニア大学（リバーサイド校）にて水資源計画学の研修（約13ヵ月）、1974～77年の3年間は国連メコン委員会において、メコン河流域の水資源と農業開発計画に関する調査・研究に従事した。
6. (1) “Pioneer Settlement and Water Control Development in the West Bank Tract of the Lower Chao Phraya Delta—Water Conditions in the Deltaic Lowland Rice Fields (II),” 『東南アジア研究』11(3), 1974.
- (2) 「メコンデルタ稲作農業の自然環境とデルタの開発構図」『東南アジア研究』13(1), 1975.
- (3) “Agro-hydrologic Regions of the Chao Phraya Delta,” in S. Ichimura (ed.), *Southeast Asia: Nature, Society and Development*, University Press of Hawaii, Honolulu, 1977.
- (4) *Pa Mong Optimization and Downstream Effects Study, Main Report*, Report of Mekong Secretariat, MKG 45, Rev. 1, 1978.
- (5) “Effect of Mekong Mainstream Flood Regulation on Hydrology and Agriculture in the Cambodian Lowland (I): Rice Culture,” 『東南アジア研究』16(4), 1979.
- (6) 「メコンをデザインする」松田松二（編）『自然とむすぶ文化』共立出版, 1980.
- (7) 「熱帯アジアの伝統的農業水利技術」『農業土木学会誌』51(1), 1983.
- (8) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand (An Interim Report)*, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1983.
- (9) 『淀川農業水利史』農業土木学会, 1983.
- (10) “Climate and Agricultural Land Use in Thailand,” in M.M. Yoshino (ed.), *Climate and Agricultural Land Use in Monsoon Asia*, University of Tokyo Press, 1984.
- (11) *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand; Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas*, No. 2, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
- (12) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand (The Second Interim Report)*, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1985.
- (13) “Hydrology of Rice Land,” in *Soil Problems in Rice Based Cropping Systems*, International Rice Research Institute, 1985.
- (14) 「東北タイ・ドンデーン村：村のたたずまい」(共著)「東北タイ・ドンデーン村：稲作の不安定性」(共著)『東南アジア研究』23(3), 1985.
- (15) 「東北タイの開拓空間の形成」石井米雄（編）『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1986.
- (16) 「水文と水利の生態」渡部忠世・福井捷朗（共編）『稲のアジア史』第1巻, 小学館, 1987.
- (17) 「灌漑とアジアの稲作」『グリーンレボリューションの20年』日大農獣医学部国際地域研究所, 1987.
- (18) 「世界の灌漑排水」丸山利輔他（編）『新編灌漑排水』養賢堂, 1988.
- (19) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand (The Third Report)*, (共編著) CSEAS, Kyoto Univ., 1988.
- (20) *Agricultural and Rural Development in*

Bangladesh: Gobarchitra Village in Chandpur, (共編著) JICA, Dhaka, 1988.

江崎 光男

1. 東京大学教養学部, 1966.
2. ハーバード大学 Ph.D. (経済学), 1974.
3. 計量経済学・経済発展論
4. 東南アジア諸国における経済計画と開発政策の数量的研究
5. 1969年, 助手としてセンターに着任。1970～74年, ハーバード大学およびセンターにて日本経済の計量経済学的研究に従事, 同大学より Ph.D. を取得。1975～76年 (18ヵ月), フィリピン大学経済学部の客員準教授として大学院コースを担当, フィリピン経済成長の数量的実証研究に従事。1977年, センター助教授に昇任。1978～79年 (12ヵ月), 国連アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP, 在バンコク) の経済問題担当官として, ESCAP 地域のリンク・モデル作成プロジェクトに参加。1980～84年, センターのアジア・リンク・プロジェクトに継続して従事。1981～82年 (9ヵ月), ジャカルタ連絡事務所に駐在, BAPPENAS (インドネシア開発計画庁) の計画モデル作成プロジェクトに参加。1985～86年, 東南アジア諸国の経済計画と開発政策に関する海外調査を実施 (文部省科学研究費補助金)。1989～90年 (10ヵ月), フィリピン大学経済学部の客員教授として大学院コースを担当, フィリピン経済発展の政策論的研究に従事。
6. (1) "On the Two-Gap Analysis of Foreign Aid," *Journal of Southeast Asian Studies* (Singapore), 6(2), 1975.
- (2) "Econometric Growth Model and Forecasting Simulations for Postwar Japan: 1952-1980," 『季刊理論経済学』26(3), 1975.
- (3) "Growth Accounting of the Philippines: A Comparative Study of the 1965 and 1969 Input-Output Tables," *Philippine Economic Journal*, 14(4), 1975.
- (4) "Growth Accounting of the Philippines: The Demand-for-Output Side," 『東南アジア研究』15(1), 1977.
- (5) 『日本経済のモデル分析』創文社, 1977.
- (6) "Growth Accounting of Postwar Japan: The Input Side," 『季刊理論経済学』29(3), 1978.
- (7) "Linking National Econometric Models of Japan, U.S.A. and the East and Southeast Asian Countries—A Pilot Study," 『東南アジア研究』17(2), 1979.
- (8) "The Bank of Thailand Model and Its Application to Policy Simulations," 『東南アジア研究』18(1), 1980.
- (9) 「東南アジア輸出成長の諸要因——需要サイドからの計量分析 (1967-76年)」 『東南アジア研究』19(3), 1981.
- (10) "An Econometric Model of Indonesia with Particular Reference to the Monetary Sector: 1970-1980," 『東南アジア研究』21(2), 1983.
- (11) "An Econometric Link System for the East and Southeast Asian Countries, Japan and the United States," (共著) 『東南アジア研究』22(3), 1984.
- (12) 『経済発展論』(共編著) 創文社, 1985.
- (13) *Econometric Models of Asian Link* (共編著), Springer-Verlag, 1985.
- (14) "A Computable General Equilibrium Model of the Japanese Economy," *Kobe Economic and Business Review*, No. 32, 1986.
- (15) *Development Planning and Policies in ASEAN Countries* (編著), (科学研究費報告書), 1987.
- (16) 「石油価格・財政金融政策・構造変化の

マクロ・インパクト——タイ経済の一般均衡 (CGE) 分析——『東南アジア研究』25(3), 1987.

- (17) 「石油価格変化・租税政策のマクロ・インパクト——一般均衡 (CGE) モデルに基づくインドネシア・フィリピン・タイ・日本の国際比較分析——」(共著)『経済研究』39(1), 1988.
- (18) 「石油価格変化のマクロ・インパクト——日本経済の一般均衡 (CGE) 分析——」『季刊理論経済学』40(2), 1989.
- (19) 「インドネシアにおける逆オイル・ショックと構造調整政策——CGE モデルに基づく1980年と1985年の比較静学分析——」『東南アジア研究』27(4), 1990 (近刊).
- (20) “Economic Development of ASEAN Countries and Their Prospects Towards NICs,” *Asian Economic Outlook*, East-West Center, Hawaii (forthcoming).

高阪 章

1. 京都大学経済学部, 1972.
2. スタンフォード大学 Ph.D. (経済学), 1984.
3. 国際経済学・経済発展論
4. (1) 東南アジア諸国の対外債務とマクロ経済運営
(2) アジア諸国の金融の発展
5. アジア経済研究所研究員 (1975-88年) を経て, 1988年, 東南アジア研究センター助教授として着任, 現在に至る。
この間, 韓国, 台湾, マレーシア, シンガポール, 香港, インドネシア, タイ, フィリピンで現地調査を実施した他, 1986-87年, 一橋大学経済研究所客員助教授, 1987-88年, ハーバード大学経済学部客員研究員として発展途上国のマクロ経済政策の研究に従事した。
6. (1) 「発展途上国のマクロ金融モデル」『アジア経済』22(9), 1981.

- (2) *Exchange Rate Policies in High-Inflation LDCs—A Case of Brazil—* (Roberto Fendt, Jr. と共著), Joint Research Project Series, 44, Institute of Developing Economies, 1984.
- (3) *Yen-Dollar Exchange Rate Determination: 1973-82*, Ph.D. Dissertation, Stanford University, 1984.
- (4) “Introduction (to the Special Issue on Monetary and Fiscal Aspects of Economic Development),” *Developing Economies*, 22(4), 1984.
- (5) “The High Interest Rate Policy under Financial Repression,” *Developing Economies*, 22(4), 1984.
- (6) 「中進国における対外調整政策: 総論」『アジア経済』26(9), 1985.
- (7) 「交易条件と実質為替レート」『アジア経済』26(9), 1985.
- (8) 「アジア諸国の為替政策」『アジア経済』26(9), 1985.
- (9) 「第2次石油危機後のブラジルの為替レート政策」『アジア経済』26(9), 1985.
- (10) 「経済発展と高金利政策」『金融学会報告』61, 1985.
- (11) 『経済発展と財政金融』(伊東和久, 田近栄治と共編), アジア経済研究所, 1985.
- (12) 「経済発展における金融の役割」『アジア経済』27(9-10), 1986.
- (13) 「アジア諸国の金融自由化とそのインパクト」『アジア経済』28(12), 1987.
- (14) “Financial Liberalization in Asian NICs—A Comparative Study of Korea and Taiwan in the 1980s—,” *Developing Economies*, 25(4), 1987.
- (15) 「金融規制緩和と金融の発展」『金融学会報告』65, 1988.
- (16) 「発展途上国における対外借入れとマクロ安定化政策——チリ・韓国の事例比較

- 』『経済研究』39(1), 1988.
- (17) 「経済発展における金融の役割——高度成長期の日本の事例研究——」山澤逸平(編)『日韓経済発展比較論』総合研究開発機構, 1988.
- (18) 「発展途上国における金融自由化」『金融学会報告』66, 1988.
- (19) “The Role of Finance in Postwar Japan’s Economic Development,” in Chung H. Lee and Ippei Yamazawa (eds.), *Economic Development of Japan and Korea: A Parallel with Lessons*, Praeger Publishers (forthcoming).
- (20) 「発展途上国の対外借入れ戦略——1980年代東南アジア諸国のマクロ経済運営——」伊藤元重・石見徹(編)『国際資本移動と累積債務』東京大学出版会(近刊).

人間環境部門

福井 捷朗

1. 京都大学農学部, 1961.
2. 京都大学農学博士, 1974.
3. 農業生態
4. 東北タイ, ヤソトン県の農業生態
5. 1964~69年, タイ国カセサート大学及び農務省米穀局にて稲作を研究。1967年, 京都大学東南アジア研究センター助手に採用される。1969年同農学部助手, 1974年同東南アジア研究センター助手。1975年同助教授, 1987年同教授に昇任, 現在に至る。1982年より京都大学大学院農学研究科熱帯農学専攻助教授, 1987年同教授を併任。
1972年タイ及びジャワ, 1974年メコンデルタ, 1976年イラワディデルタ及びサラワク, 1977年西マレーシア, 1979年スマトラ及びビルソン島, 1979年, 1980年タイにおいて, それぞれ数ヶ月の現地調査に従事する。1975年, オランダ農科大学にて研究。1981~82年及び

1983年, 東北タイ村落定着調査に従事する。1986年, 1989年, 県レベルの農業生態調査のため東北タイにて現地調査に従事する。

6. (1) “Environmental Determinants Affecting the Potential Dissemination of High Yielding Varieties of Rice: A Case Study of the Chao Phraya River Basin”『東南アジア研究』9(3), 1971.
- (2) 「気候変動と湿潤熱帯の農業」『科学』49(3), 1979.
- (3) 「サラワク低地の土地利用と未利用」『東南アジア研究』17(4), 1980.
- (4) 「火耕水耨の論議によせて」『農耕の技術』3, 1980.
- (5) “Climatic Variability and Agriculture in Tropical Moist Regions,” in *Proceedings of The World Climate Conference, Geneva, February 1979* (WMO-No. 537), World Meteorological Organization, Geneva, 1980.
- (6) “Variability of Rice Production in Tropical Asia,” in *Drought Resistance in Crops with Emphasis on Rice*, International Rice Research Institute, Los Banos, 1982.
- (7) *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The First (1983), Second (1985) and Third (1988) Interim Reports), (共編著) CSEAS, Kyoto Univ.
- (8) 「東南アジア低湿地の土地利用」『東南アジア研究』21(4), 1984.
- (9) 「エコロジーと技術: 適応のかたち」渡部忠世・福井捷朗(共編)『稲のアジア史』第1巻『アジア稲作文化の生態基盤』小学館, 1987.
- (10) 『ドンデーン村——東北タイの農業生態——』創文社, 1988.

田中 耕司

1. 京都大学農学部, 1969.

2. 京都大学農学修士, 1972.
3. 作物学
- 4.(1) 熱帯アジアにおける水田・畑の伝統的作付体系
(2) インドネシアの移住民の農業適応
5. 1973年, 京都大学農学部助手に採用される。1979年, 東南アジア研究センター助手に配置換え, 1984年, 助教授に昇任, 現在に至る。
この間, 1974年, ビルマにおいて栽培稲の変遷の調査, 1978~79年, ビルマ, アッサムにおいて野生イネの分布と栽培イネの生態型分化の調査に従事。1979年, インド, スリランカにおいてクロッピングシステム, 作物生産, 食糧構造の比較研究調査を行う。1980~85年にかけて3次にわたり, インドネシアにおいて熱帯島嶼域の人の移動に関わる環境形成過程の研究調査に参加, その後, インドネシア, バングラデシュ, マダガスカルでも調査を行う。
- 6.(1) 「ビルマにおける栽培稲の変遷と稲作の展開」(共著)『東南アジア研究』19(2), 1981.
(2) “Traditional Cropping Systems of Small Farmers in the Central and Southern Decan Plateau Area,” (共著)『東南アジア研究』19(2), 1981.
(3) “Agricultural Adaptation by Spontaneous Migrants to Northern Kabupaten Luwu,” in Mattulada and N. Maeda (eds.), *Villages and Agricultural Landscape in South Sulawesi*, CSEAS, Kyoto Univ., 1982.
(4) 「ビルマの農業と農民」『国際農林業協力』5(1), 1982.
(5) 「南スラウェシ州ルウ県北部への人の移動と水田農耕の技術変容」『東南アジア研究』20(1), 1982.
(6) 「踏耕の系譜」(共著)渡部忠世(編)『南西諸島農耕における南方的要素』(科学研
究費報告書), 東南アジア研究センター, 1982.
(7) “Potential Productivity of Rice in the Low-Country Wet Zone of Sri-Lanka,” (共著) *JARQ*, 17(2), 1983.
(8) 「与那国島の水田立地と稲作技術——東南アジア島嶼部稲作との関連において」『東南アジア研究』21(3), 1983.
(9) “Agricultural Adaptation among Bugis Spontaneous Migrants—A Case Study in Northeastern Kabupaten Luwu,” in N. Maeda and Mattulada (eds.), *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia*, CSEAS, Kyoto Univ., 1984.
(10) 「ジャワの耕地利用と食用作物栽培」栗原浩教授定年退官記念出版会(編)『耕地利用と作付体系』大明堂, 1984.
(11) 「東南アジア島嶼部の環境と農業適応——開拓地入植者にみる適応のかたち」石井米雄(編)『東南アジア世界の構造と変容』創文社, 1985.
(12) 「杵と臼の文化史」大林太良他(編)『田園祝祭 さと』旺文社, 1986.
(13) “Bugis and Javanese Peasants in the Coastal Lowland of the Province of Riau, Sumatra: Differences in Agricultural Adaptation,” in T. Kato *et al.* (eds.), *Environment, Agriculture and Society in the Malay World*, CSEAS, Kyoto Univ., 1986.
(14) “A Note on Spontaneous Migrants and Their Settlements in Northeastern Kabupaten Luwu, South Sulawesi,” in K. Tanaka *et al.* (eds.), *Environment, Landuse and Society in Wallacea*, CSEAS, Kyoto Univ., 1986.
(15) 「稲作技術の類型と分布」渡部忠世・福井捷朗(共編)『稲のアジア史』第1巻, 小学館, 1987.
(16) 「近世における集約稲作の形成」渡部忠

- 世・田中耕司(共編)『稲のアジア史』第3巻, 小学館, 1987.
- (17) 「熱帯降雨林気候下の農民農業——東南アジアの場合」『熱帯農業』31(2), 1987.
- (18) “Rice and Rice Culture in Madagascar,” in Y. Takaya (ed.), *Madagascar: Perspectives from the Malay World*, CSEAS, Kyoto Univ., 1988.
- (19) 「稲作技術発展の論理——アジア稲作の比較技術論に向けて」『農業史年報』2, 1988.
- (20) 「マダガスカルのイネと稲作」『東南アジア研究』26(4), 1989.

河野 泰之

1. 東京大学農学部, 1981.
2. 東京大学農学博士, 1986.
3. 土地・水利用
- 4.(1) 天水田から灌漑田への展開過程
 - (2) タイの農業生態
 - (3) 天水田水稲作の水文環境
5. 1987年東南アジア研究センター助手に採用され, 現在に至る。1981年ジャワ島において水源補強と末端水路整備の効果と影響の調査, 1983~84年タイにおいて天水田地域の土地・水利用の調査, スリランカ及び南インドにおいてため池灌漑田地域の土地・水利用の調査, 1986年ルソン島において天水田と灌漑田の水文環境の比較調査, 1989年イラン, イラク, エジプトにおいて水利調査に従事する。
- 6.(1) 「熱帯農業開発における水田の意義」『農業土木学会誌』51(1), 1983.
 - (2) “Ch.6. Land and Water/Hydrography” and “Ch.8. Agriculture-Environment Interaction/Water Stress and Rice Production,” in H. Fukui *et al.* (eds.), *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report),

CSEAS, Kyoto Univ., 1985.

- (3) 「東北タイ・ドンデーン村：稲作の不安定性」『東南アジア研究』23(3), 1985.
- (4) 「熱帯モンスーン地域の天水田の農業基盤の研究」東京大学博士論文, 1985.
- (5) 「タイ国東北部の天水田の水文環境と水利開発」『拓殖学研究』26, 1986.
- (6) 「天水田における土地改良事業の経済効果」『農業土木学会誌』55(9), 1987.
- (7) “Ch.3. Instability of Rice Production and Its Implications,” in H. Fukui *et al.* (eds.), *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Third Interim Report), CSEAS, Kyoto Univ., 1988.

客員教官

大野 徹

1. 大阪外国語大学ビルマ語学科, 1960.
2. 京都大学文学修士, 1963.
3. ビルマ語, ビルマの政治経済史
- 4.(1) 現代ビルマ語の語彙論的研究
 - (2) 現代ビルマの政治経済構造
5. 1965年, 大阪外国語大学ビルマ語学科助手に採用される。1966年, 同講師, 1970年, 同助教授, 1980年, 同教授に昇任, 現在に至る。1989年4月より東南アジア研究センター併任教授を兼ねる。

ビルマの政治経済史調査および史料蒐集のため, 1972年と1973年(科学研究費による現地調査)の2回, それぞれ5カ月間ずつビルマへ出張。1980年には, 在外研究員として1年間ビルマに滞在し, 政治経済史の研究に従事する。また, 1967年から69年までの2年間, コロンボ計画に基づく専門家としてラングーン外国語学院で日本語教育を担当, 1987年には大連外国語学院で中国人大学院生に日本語の予備教育を実施する。

- 6.(1) 「ビルマにおけるカレン民族の独立闘争史」『東南アジア研究』7(3)(4), 8(1), 1969-70.
- (2) 『ビルマの社会と経済』アジア経済研究所, 1972.
- (3) 「ビルマ」松本重治(編)『東南アジア=ハンドブック』毎日新聞社, 1972.
- (4) 『ビルマ——その社会と価値観』(共著), 現代アジア出版会, 1975.
- (5) 「小教民族の運動と中ソ対立」浅野幸穂(編)『中ソ対立とアジア, 1968-75』アジア経済研究所, 1977.
- (6) 『バガンの仏教壁画』講談社, 1978.
- (7) 『東南アジアと国際関係』(編), 晃洋書房, 1979.
- (8) 『ビルマ語辞典』(共編), 日本ビルマ文化協会, 1979.
- (9) 『ビルマの仏塔』講談社, 1980.
- (10) 「コンバウン時代のビルマ人留学生」永積昭(編)『東南アジアの留学生と民族主義運動』巖南堂, 1981.
- (11) 『日本語ビルマ語辞典』(共編)ビルマ政府教育省, 1982.
- (12) 『英語対照ビルマ語会話』大学書林, 1982.
- (13) 「ビルマ」(共著)『東南アジア現代史』有斐閣, 1982.
- (14) 「歴史的背景」綾部恒雄, 永積昭(編)『もっと知りたいビルマ』弘文堂, 1983.
- (15) 『現代ビルマ語入門』泰流社, 1983.
- (16) 「英緬戦争と英緬両国の反応」石井米雄(編)『差異の事件誌』巖南堂, 1984.
- (17) 「ビルマ」(共著)『アジア歴史研究入門』同朋舎, 1984.
- (18) 『ビルマ語常用6000語』大学書林, 1984.
- (19) 『ビルマ語四週間』大学書林, 1986.
- (20) 『東南アジア大陸の言語』大学書林, 1987.

西村 重夫

1. 広島大学教育学部, 1974.
2. 広島大学教育学修士, 1978.
3. 比較教育学
- 4.(1) インドネシアの国民教育
(2) パンチャシラ道徳教育の研究
5. 1976~77年, インドネシア・バンドゥン教育大学に留学。1979年, 美作女子大学短期大学部講師。1982年, 美作女子大学講師。1983年, 同大学助教授。1984年, 九州大学教育学部附属比較教育文化研究施設講師。1988年, 同研究施設助教授, 現在に至る。1989年, 東南アジア研究センター併任助教授。
1986~87年, バンドゥンにおいてパンチャシラ道徳教育の研究に従事。
- 6.(1) 「インドネシアの学校」沖原 豊(編)『世界の学校』有信堂, 1981.
(2) 「インドネシアにおける教育目的の変遷に関する一考察」『美作女子大学・美作女子大学短期大学部紀要』28, 1983.
(3) 「インドネシア」阿部 洋(編)『世界の幼児教育1. アジア』日本らいぶらり, 1983.
(4) 「インドネシアの独立戦争期における教育政策の成立過程」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』36, 1985.
(5) 「パンチャシラ道徳教育の成立と発展」『日本比較教育学会紀要』12, 1986.
(6) 「パンチャシラ道徳教育の構造」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』37, 1986.
(7) 「パンチャシラ道徳教育の諸相」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』38, 1987.
(8) 「インドネシアの教育における伝統と革新」権藤与志夫・弘中和彦(編)『アジアの文化と教育』九州大学出版会, 1987.
(9) 「パンチャシラ道徳教育の方法論」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』39, 1988.

- (10) “Perbandingan Pendidikan Moral di Indonesia dan Jepang,” *Mimbar Pendidikan*, 8(3), 1989.
- (11) 「インドネシアにおけるイスラーム教育の構造——小学校用教科書の内容分析を中心として——」『九州大学教育学部紀要（教育学部門）』34, 1989.
- (12) 「マレーシアにおけるイスラーム教育の

- 構造——小学校用教科書の内容分析を中心として——」『九州大学比較教育文化研究施設紀要』40, 1989.
- (13) 「国民教育の発展戦略」馬越 徹（編）『現代アジアの教育』東信堂, 1989.
- (14) 「インドネシア——多様性の中の統一をめざす教育——」馬越 徹（編）『現代アジアの教育』東信堂, 1989.

2. 資料部

北野 康子

1. 長崎大学教育学部, 1962.
2. ハワイ大学 MATESL (Master of Arts in Teaching English as a Second Language), 1968. ハワイ大学 MLS (Master of Library Studies), 1971.
3. 図書館学
4. (1) 東南アジア研究資料の目録情報
(2) ライブラリー・オートメーション
5. 1966～68年, East-West Center 奨学生, 1969～71年, ハワイ大学大学院にて図書館学を修める。1971～77年, 貿易研修センター情報資料室勤務を経て, 1977年, 東南アジア研究センター資料部図書室に助手として着任, 現在に至る。
6. (1) *The Bibliography of Bibliographies of the Pacific*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1969.
(2) *United Nations Documents on the Trust Territory of the Pacific Islands*, Graduate School of Library Studies, University of Hawaii, Honolulu, 1971.
(3) 「発展途上国の経済ナショナルリズムと経済統合に関する文献目録」(共編)『アジア経済資料月報』20(3), 1978.

- (4) *Women in Southeast Asia: A Bibliography, for the National Women's Education Center, Japan*, Kyoto, 1979.
- (5) 「図書館ネットワークのしくみ: WLNのシステム, Washington Library Network」(共編)ライブラリー・オートメーション研究会, 京都, 1982.
- (6) 「インドネシアにおける図書館システム」(訳)『図書館界』35(4), 1983.
- (7) “Southeast Asian Research Resources in Western Japan,” Presented at the Seventh Congress of Southeast Asian Librarians, Manila, 15-21 February 1987.

米沢真理子

1. 京都大学文学部, 1972.
2. 京都大学文学修士, 1974.
4. タイの教育と文化.
5. 1974年, 京都大学東南アジア研究センターに文部事務官として採用される。1987年, 東南アジア研究センター資料部編集室助手に配置換, 現在に至る。
6. 「バスカルにおけるキリスト教弁証論の方法」(京都大学修士論文), 1974.

永田 好克

1. 京都大学工学部, 1985.

2. 京都大学工学修士, 1987.
 3. 言語情報処理
 - 4.(1) 自然言語入出力インターフェイス
(2) 言語情報データベース
 5. 1987年, 富士写真フィルム株式会社入社。
- 1988年, 東南アジア研究センター助手として採用され現在に至る。
- 6.(1) 「日本語論説文に現れる照応表現の処理」情報処理学会第34回全国大会, 1987.

第5章 出版目録

1989年12月現在で、センターが刊行した東南アジア研究叢書（和文，英文），『東南アジア研究』（24巻1号以降），研究報告書シリーズの一覧を掲げる。なお，前述したように，『東南アジア研究』第1号から23巻4号までの全所収論文等は総目録として『東南アジア研究』別冊（23巻5号）に，またリプリント・シリーズ，ディスカッション・ペーパーの一覧は『昭和62年度版センター要覧』に一括掲載されているので，参照されたい。

1. 東南アジア研究叢書

A. 和文叢書

1. 棚瀬 襄爾. 1966. 『他界観念の原始形態』
2. 矢野 暢. 1968. 『タイ・ビルマ現代政治史研究』
3. 本岡 武. 1968. 『東南アジア農業開発論』
4. 坪内 良博；坪内 玲子. 1971. 『離婚』創文社.
5. 飯島 茂. 1971. 『カレン族の社会・文化変容』創文社.
6. シェトルツ. 1974. 『ビルマ——地誌・歴史・経済』野上裕生（訳）. 創文社.
7. 市村 真一 編. 1974. 『東南アジアの自然・社会・経済』創文社.
8. 石井 米雄 編. 1975. 『タイ国——ひとつの稲作社会』創文社.
9. 石井 米雄. 1975. 『上座部仏教の政治社会学』創文社.
10. 本岡 武. 1975. 『インドネシアの米』創文社.
11. 市村 真一 編. 1975. 『東南アジアの経済発展』創文社.
12. 口羽；坪内；前田 編. 1976. 『マレー農村の研究』創文社.
13. 西原 正 編. 1976. 『東南アジアの政治的腐敗』創文社.
14. エクスタインほか 編. 1979. 『中国の経済発展』市村真一（監訳）. 創文社.
15. 渡部 忠世 編. 1980. 『東南アジア世界——地域像の検証』創文社.
16. 水野 浩一. 1981. 『タイ農村の社会組織』創文社.
17. 土屋 健治. 1982. 『インドネシア民族主義研究——タマン・シスワの成立と展開』創文社.
18. 高谷 好一. 1982. 『熱帯デルタの農業発展——メナム・デルタの研究』創文社.
19. 小林 和正. 1984. 『東南アジアの人口』創文社.
20. 石井 米雄 編. 1986. 『東南アジア世界の構造と変容』創文社.
21. 桜井由躬雄. 1987. 『ベトナム村落の形成——村落共有田＝コンディエン制の史的展開』創文社.
22. 福井 捷朗. 1988. 『ドンデーン村——東北タイの農業生態』創文社.

B. 英文叢書

1. SATO, Takashi. 1966. *Field Crops in Thailand*. Kyoto: CSEAS.
2. WATABE, Tadayo. 1967. *Glutinous Rice in Northern Thailand*. Kyoto: CSEAS.
3. TAKIMOTO, Kiyoshi, ed. 1968. *Geology and Mineral Resources in Thailand and Malaya*. Kyoto: CSEAS.
4. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Thailand*. Kyoto: CSEAS.
5. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1969. *Lowland Rice Soils in Malaya*. Kyoto: CSEAS.
6. MAEDA, Kiyoshige. 1967. *Alor Janggus, a Chinese Community in Malaya*. Kyoto: CSEAS.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1975. *The Economic Development of East and Southeast Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
8. NISHIHARA, Masashi. 1976. *The Japanese and Sukarno's Indonesia: Tokyo-Jakarta Relation, 1951-66*. Honolulu: University Press of Hawaii.
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Southeast Asia: Nature, Society and Development*. Honolulu: University Press of Hawaii.
10. KAWAGUCHI, Keizaburo; and KYUMA, Kazutake. 1977. *Paddy Soils in Tropical Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
11. YOSHIHARA, Kunio. 1978. *Japanese Investment in Southeast Asia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
12. ISHII, Yoneo, ed. 1978. *Thailand: A Rice-Growing Society*. Honolulu: University Press of Hawaii.
13. CHO, Lee-Jay; and KOBAYASHI, Kazumasa, eds. 1980. *Fertility Transition of the East Asian Populations*. Honolulu: University Press of Hawaii.
14. KUCHIBA, Masuo; TSUBOUCHI, Yoshihiro; and MAEDA, Narifumi. 1979. *Three Malay Villages: A Sociology of Paddy Growers in West Malaysia*. Honolulu: University Press of Hawaii.
15. CHO, Lee-Jay; SUHARTO, S.; MCNICOLL, G.; and MAMAS, S.G.M. 1980. *Population Growth of Indonesia: An Analysis of Fertility and Mortality Based on the 1971 Population Census*. Honolulu: University Press of Hawaii.
16. ISHII, Yoneo. 1986. *Sangha, State, and Society: Thai Buddhism in History*. Honolulu: University of Hawaii Press.
17. TAKAYA, Yoshikazu. 1987. *Agricultural Development of a Tropical Delta: A Study of the Chao Phraya Delta*. Honolulu: University of Hawaii Press.
18. TSUCHIYA, Kenji. 1988. *Democracy and Leadership: The Rise of the Taman Siswa Movement in Indonesia*. Honolulu: University of Hawaii Press.

2. 『東南アジア研究』(24巻1号から27巻3号まで)

『東南アジア研究』第1号から23巻4号までの全所収論文等は総目録として別冊23巻5号に掲載されているので、ここでは、24巻1号から最新号までの所収論文等を掲げる。各報告は、コード番号・著者名・報告表題・掲載頁の順に配列されている。コード番号は、4, 5桁目の数字が巻数を、3桁目の数字が号数を、そして、1, 2桁目の数字が報告の番号を表している。

24巻1号 [Vol. 24, No. 1] 1986年6月 [June 1986]

論文 [Article]

24101 青山 亨 [Aoyama, Toru]. 古ジャワ文学におけるスタソーマ物語の受容と変容 [The Adoption and Structural Transformation in Old Javanese Literature of *Sutasoma*, an Indian Buddhist Story]. 3-17.

資料・研究ノート [Notes]

- 24102 川崎有三 [Kawasaki, Yuzo]. 小コミュニティの社会位相空間論——マレーシア潮州人漁村にみられるリズム・テンポ・メロディー——[A Small Community as a Sociotopological Space—Rhythm, Tempo and Melody of a Teochiu Fishing Village, Malaysia—]. 18-52.
- 24103 金 昌男 [Kim, Chang-Nam]. 工業部門の雇用吸収力と労働移動——アジア5カ国の事例——[Industrial Sector Labor Absorption and Migration in Asian Countries]. 53-64.
- 24104 古川久雄 [Furukawa, Hisao]. バタンハリ川流域低湿地の農業景観 その2. 農業景観の展開 [Agricultural Landscape in the Lower Batang Hari, Sumatra Part Two: Vicissitudes of Agricultural Land Use]. 65-105.

現地通信 [Field Report]

- 24105 Andaya, Leonard Yuzon. A Short Introduction to Some Archival Resources in the Netherlands, Spain, and Portugal for the Study of Southeast Asia. 106-109.
- 24106 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 110.

24巻2号 [Vol. 24, No. 2] 1986年9月 [Sept. 1986]

Problem Soils in Southeast Asia

- 24201 Supiandi Sabiham; and Furukawa, Hisao. A Study of Floral Composition of Peat Soil in the Lower Batang Hari River Basin of Jambi, Sumatra. 113-132.
- 24202 Wongsomsak, Sompob. Salinization in Northeast Thailand. 133-153.
- 24203 Attanandana, Tasnee; and Vacharotayan, Sorasith. Acid Sulfate Soils: Their Characteristics, Genesis, Amelioration and Utilization. 154-180.

論文 [Article]

24204 Duff-Cooper, Andrew. Alternation and Other Modes of Periodicity from a Balinese Form of Life in Western Lombok. 181-196.

資料・研究ノート [Note]

24205 青木恵理子 [Aoki, Eriko]. 中部フローレスにおける神秘力と性 [Mystic Power and Sex in Central Flores]. 197-223.

現地通信 [Field Report]

24206 片山 裕 [Katayama, Yutaka]. 1986年2月16日のコーリー [Corazon Aquino on Feb. 16, 1986]. 224-225.

24207 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 226.

24巻3号 [Vol. 24, No. 3] 1986年12月 [Dec. 1986]

論文 [Article]

24301 Fukui, Seiichi. An Economic Analysis of Traditional Water Management Institutions in Northern Thailand. 229-242.

資料・研究ノート [Notes]

24302 Wakatsuki, Toshiyuki; Saidi, Amrizal; and Rasyidin, Azwar. Soils in the Toposequence of the Gunung Gadut Tropical Rain Forest, West Sumatra. 243-262.

24303 高谷好一; アリス・ポニマン [Takaya, Yoshikazu; and Poniman, Aris]. 熱帯多雨林沿岸部の生活——東スマトラ, リアウ州の実例——[Traditional Life and Its Transformation among the Melayu People on the East Coast of Sumatra]. 263-288.

24304 合田 壽 [Goda, Toh]. オッチャス老の死——ボントック族の葬礼と世界観——[The Death of Old Odchas —A Study on the Bontok Funeral Ceremony and Cosmology—]. 289-317.

現地通信 [Field Report]

24305 Aung-Thwin, Michael. Burma Studies News. 318-321.

24306 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 322-324.

24巻4号 [Vol. 24, No. 4] 1987年3月 [March 1987]

論文 [Article]

24401 Thee Kian Wie; and Yoshihara, Kunio. Foreign and Domestic Capital in Indonesian Industrialization. 327-349.

24402 Kuribayashi, Sei. A Medium-term Macroeconometric Model for Economic Planning in Indonesia. 350-376.

- 24403 牟田博光 [Muta, Hiromitsu]. インドネシアの教育とマンパワー [Education and Manpower of Indonesia]. 377-402.
- 24404 桃木至朗 [Momoki, Shiro]. ヴェトナム李朝の軍事行動と地方支配 [Military Actions and Control of Local Powers in Vietnam under the Lý Dynasty]. 403-417.

資料・研究ノート [Note]

- 24405 福島真人 [Fukushima, Masato]. 閉ざされた言語——サミン運動とその言語哲学 [The Closed Language—The Samin Movement and Its Philosophy of Language—]. 418-435.

現地通信 [Field Report]

- 24406 中川 敏 [Nakagawa, Satoshi]. 「インドネシア考」のための覚書き [A Memorandum for 'Indonesian Studies']. 436.

25巻1号 [Vol. 25, No. 1] 1987年6月 [June 1987]

渡部忠世教授退官記念号

——熱帯アジアの稲と稲作——

[Commemorative Issue on the Retirement of Professor Tadayo Watabe

——Rice and Rice Culture in Tropical Asia——]

- 25101 片山忠夫 [Katayama, C. Tadao]. 熱帯アジアの野生稲の分布とその特性 [Distribution and Some Characteristics of Wild Rice, Genus *Oryza*, in Tropical Asia]. 3-27.
- 25102 高橋成人 [Takahashi, Norindo]. アジア栽培稲の生態型と生態的特性 [Characters and Differentiation of Ecotypes in Rice, *Oryza sativa* L.]. 28-38.
- 25103 角田重三郎 [Tsunoda, Shigesaburo]. アジアの陸稲, その分布と特性と系譜 [Distribution, Properties and Phylogenetic Relations of Asian Upland Rice Varieties]. 39-50.
- 25104 井之上 準 [Inouye, Jun]. 東南アジアの浮稲とその生態 [On Floating Rice and Its Ecological Traits in Southeast Asia]. 51-61.
- 25105 Horie, Takeshi. A Model for Evaluating Climatic Productivity and Water Balance of Irrigated Rice and Its Application to Southeast Asia. 62-74.
- 25106 黒田俊郎; 宮川修一 [Kuroda, Toshiro; and Miyagawa, Shuichi]. 東北タイ・ドンデーン村における天水田稲作の収量 [Don Daeng Village in Northeast Thailand: Paddy Yield of Rain-fed Fields]. 75-84.
- 25107 五十嵐忠孝 [Igarashi, Tadataka]. 農作業, 季節, 星——西ジャワ・プリアガン高地における畑地耕作をめぐる季節性と農作業のタイミング——[Agricultural Operations, Seasonality, and Stars: Annual Cycle of Upland Cultivation in a Sundanese Village, West Java]. 85-108.
- 25108 広瀬昌平 [Hirose, Shohei]. インドネシア, ランボン州の水稲作と陸稲作 [Lowland and Upland Rice Cultivation in Lampung Province, Indonesia]. 109-124.
- 25109 安藤和雄 [Ando, Kazuo]. ベンガル・デルタ低地部の稲作——バン格拉デシュ東部地方におけるアウス・散播アマンの混播栽培とパーボイルド米に関するノート——[Rice Cultivation in

- the Low-lying Areas of the Bengal Delta —A Note on Mixed Aus and Broadcast Aman Cultivation and Parboiled Rice in the Eastern Region of Bangladesh—]. 125–139.
- 25110 藤原宏志 [Fujiwara, Hiroshi]. プラント・オパール分析による弥生時代水田遺構の検討——とくに鳥取・日久美遺跡および青森・垂柳遺跡の水田遺構について——[Studies on Paddy Fields of the Yayoi Period by Plant Opal Analysis: Ancient Paddy Fields at the Megumi Site in Tottori Prefecture and the Tareyanagi Site in Aomori Prefecture]. 140–150.

書評論文 [Book Review]

- 25111 高村奉樹 [Takamura, Tomoki Y]. マレー半島における稲作の展開とその地域性 [Development of Rice-growing and Its Diversity in the Malay Peninsula]. 151–160.
- 25112 渡部忠世教授研究業績目録 [Publications of Professor Tadayo Watabe]. 161–168.
- 25113 渡部忠世教授略歴 [Personal History of Professor Tadayo Watabe]. 169.

現地通信 [Field Report]

- 25114 桜井由躬雄 [Sakurai, Yumio]. 廃墟のない町 [A City without Ruins]. 170–171.
- 25115 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 172–174.

25巻2号 [Vol. 25, No. 2] 1987年9月 [Sept. 1987]

論文 [Articles]

- 25201 Kaneko, Yukio; and Tampubolon, Hasudungan. The Development of the Manufacturing Sector in Indonesia. 177–204.
- 25202 深見純生 [Fukami, Sumio]. 三仏斉の再検討——マラッカ海峡古代史研究の視座転換——[Reexamination of *San-fo-ch'i*—Change of Perspective of the Study on Early History of the Western Part of Insular Southeast Asia—]. 205–232.

資料・研究ノート [Notes]

- 25203 橋本 卓 [Hashimoto, Takashi]. タイ南部国境県問題とマレー・ムスリム統合政策 [The Problems in the Southern Border Provinces of Thailand and the Integration Policy to the Malay-Muslims]. 233–253.
- 25204 Mak Lau-Fong. Chinese Subcommunal Elites in 19th-century Penang. 254–264.
- 25205 Azizah Kassim. The Unwelcome Guests: Indonesian Immigrants and Malaysian Public Responses. 265–278.
- 25206 Shibayama, Mamoru. Input/Output Methods for Thai—Development of a Database and a Computer Concordance for the Three Seals Law of Thailand—. 279–296.

現地通信 [Field Report]

- 25207 鈴木静夫 [Suzuki, Shizuo]. ペドロとホセ，二人のアバド・サントス [Pedro and Jose: Two Men Called Abad Santos]. 297–298.

25208 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 299-300.

25巻 3号 [Vol. 25, No. 3] 1987年12月 [Dec. 1987]

市村真一教授退官記念号

——東南アジア経済・社会の変容——

[Commemorative Issue on the Retirement of Professor Shinichi Ichimura

——Economic and Social Changes in Southeast Asia——]

- 25301 Hill, Hal. Patterns of Trade and Industrialization in ASEAN. 303-316.
25302 Lim Chong-Yah. Trade in Manufactures: A Singapore Perspective. 317-341.
25303 Prasert Yamklinfung. Economic Development and Rural-urban Disparities in Thailand. 342-362.
25304 Tan, Mély G. The Role of Ethnic Chinese Minority in Development: The Indonesian Case. 363-382.
25305 Thee Kian Wie. Industrial and Foreign Investment Policy in Indonesia since 1967. 383-396.
25306 Wong, John. China's Emerging Economic Relationship with Southeast Asia. 397-411.
25307 Yoshihara, Kunio. The Problem of Continuity in Chinese Businesses in Southeast Asia. 412-429.
25308 矢野 暢 [Yano, Toru]. 「介入体制」としてのタイ国政治 [Thailand as a Penetrated System]. 430-446.
25309 土屋健治 [Tsuchiya, Kenji]. タマン・シスワとインドネシア現代政治——「9月30日事件」への対応をめぐって——[Taman Siswa in the Contemporary Political Situation of Indonesia: A Preliminary Study]. 447-463.
25310 坪内良博 [Tsubouchi, Yoshihiro]. マレー農村人口の変動的性格について——クランタン・ガロック村開拓後史——[On the Mobile Character of the Malay Village Population —A Feature of the Post-settlement Population of Galok, Kelantan—]. 464-475.
25311 福井捷朗 [Fukui, Hayao]. 東北タイ・ドンデーン村：人口動態（第2報）——死亡・出生率による人口移動の推定——[Don Daeng Village in Northeast Thailand: Population (2) —An Estimate of Migration by Mortality and Fertility Rates—]. 476-494.
25312 江崎光男 [Ezaki, Mitsuo]. 石油価格・財政金融政策・構造変化のマクロ・インパクト——タイ経済の一般均衡（CGE）分析——[Macro Impacts of Oil Shocks, Fiscal Policies and Structural Changes —A CGE Analysis of the Thai Economy—]. 495-508.
25313 市村真一教授研究業績目録 [Publications of Professor Shinichi Ichimura]. 509-516.
25314 市村真一教授略歴 [Personal History of Professor Shinichi Ichimura]. 517-518.

現地通信 [Field Report]

- 25315 吉原久仁夫 [Yoshihara, Kunio]. マレーシアの企業家に関する情報源 [Sources of Information on Businessmen in Malaysia]. 519-520.
25316 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 521-522.

25巻4号 [Vol. 25, No. 4] 1988年3月 [March 1988]

西ジャワ・プリアガン地方の健康・生態・人口

[Health, Ecology and Demography in the Priangan Highlands, West Java]

- 25401 鈴木庄亮 [Suzuki, Syosuke]. スンダ農民の保健生態と生活環境 [Sickness and Death of Sundanese and Javanese Villagers: Environmental and Social Factors]. 525-544.
- 25402 小山 洋 [Koyama, Hiroshi]. 西ジャワ集落における農民の保健行動からみた公的医療機関（ブスケスマス）の問題点 [Problems of a Public Health Center (*puskesmas*) in Rural Indonesia: A Study of Health Behavior of Farmers in West Java]. 545-561.
- 25403 兵頭圭介 [Hyodo, Keisuke]. インドネシア西ジャワ州バンドン市のベチャ（人力車）車夫の体力と筋力について [Physique and Muscle Strength of *Becak* Drivers in Bandung City, West Java, Indonesia]. 562-569.
- 25404 門司和彦 [Moji, Kazuhiko]. 西ジャワ・スンダ農民の仕事——その季節による変動と性・年齢による差異—— [Work of Sundanese Villagers with Particular Reference to Seasonal Variations and Differences by Sex and Age]. 570-592.
- 25405 五十嵐忠孝 [Tadataka, Igarashi]. 西ジャワ・プリアガン地方のスンダ人農民社会における早婚・多産の文化・社会的背景 [Cultural Practices Favoring Young Marriage and High Fertility: The Case of a Priangan Sundanese Village, West Java]. 593-624.

論文 [Article]

- 25406 Odano, Sumimaru; Sabilin, Syahiril; and Diwandono, Soedradjad. Indonesian Financial Development —From Government Intervention to Liberalization—. 625-652.

書評論文 [Review Article]

- 25407 小林和正 [Kobayashi, Kazumasa]. 人口分析の側面 [Demographic Analysis]. 653-658.

現地通信 [Field Report]

- 25408 遅沢克也 [Osozawa, Katsuya]. 森の魔物たち [Demons of the Forest]. 659-660.

26巻1号 [Vol. 26, No. 1] 1988年6月 [June 1988]

論文 [Articles]

- 26101 Shimizu, Hiroshi. Dutch-Japanese Competition in the Shipping Trade on the Java-Japan Route in the Inter-war Period. 3-23.
- 26102 Nitungkorn, Sukanya. The Problems of Secondary Education Expansion in Thailand. 24-41.

資料・研究ノート [Notes]

- 26103 Yagi, Tamotsu; and Itoh, Minoru. Physical Fitness of Thai Children and Their Environment. 42-54.

- 26104 高坂宏一 [Takasaka, Kouichi]. シジャワ・スンダ農村婦人の出産後の無月経期間 [The Duration of Postpartum Amenorrhoea in a Sundanese Village]. 55-63.
- 26105 アリス・ポニマン ; 高谷好一 [Poniman, Aris; and Takaya, Yoshikazu]. ロンボク島の高地の伝統的稲作 [Traditional Rice Cultivation on Lombok]. 64-73.
- 26106 中村重久 [Nakamura, Shigehisa]. インドネシア沖の地震による津波前駆音の推定と応用について [On Estimated Acoustic Tsunami Precursor Caused by Earthquake Undersea off the Indonesian Coast and Its Application]. 74-85.

書評論文 [Review Article]

- 26107 Aye Chan. The Nature of Land and Labour Endowments to Sasana in Medieval Burmese History: Review of the Theory of "Merit-path-to-salvation." 86-95.

書評 [Book Reviews]

- 26108 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. Shamsul A. B., *From British to Bumiputera Rule: Local Politics and Rural Development in Peninsular Malaysia*. 96.
- 26109 中川 敏 [Nakagawa, Satoshi]. Cécile Barraud, *Tanebar-Evav: une société de maisons tournée vers le large*. 97-98.

現地通信 [Field Report]

- 26110 内田晴夫 [Uchida, Haruo]. ハオールの村から [From the Village in the Haor, Bangladesh]. 99-100.
- 26111 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 101-102.

26巻 2号 [Vol. 26, No. 2] 1988年 9月 [Sept. 1988]

Socio-Economic Change and Cultural Transformation in Rural Malaysia

—A Preliminary Research Report—

- 26201 Kato, Tsuyoshi; and Shamsul A. B. Editors' Introduction. 105-108.
- 26202 Kato, Tsuyoshi. Agricultural Rituals and Rice Cultivation in Negeri Sembilan: A Reconstruction from Oral History. 109-131.
- 26203 Azizah Kassim. Women, Land and Gender Relations in Negeri Sembilan: Some Preliminary Findings. 132-149.
- 26204 Norhalim Hj. Ibrahim. Some Observations on *Adat* and *Adat* Leadership in Rembau, Negeri Sembilan. 150-165.
- 26205 Maeda, Narifumi. A Note on Frontier Settlements in Johor. 166-174.
- 26206 Sekimoto, Teruo. A Preliminary Report on the Javanese in Selangor, Malaysia. 175-190.
- 26207 Mohamed Salleh Lamry. Economic Change and Social Stratification in Kampung Sungai Limau, Selangor, Malaysia. 191-204.
- 26208 Ramli Mohamed. The New Economic Policy and the Muda Irrigation Scheme: Research

Agenda for Kampung Kubang Jawi. 205-217.

26209 Shamsul A. B. Development and Change in Rural Malaysia: The Role of the Village Development Committee. 218-228.

書評 [Book Reviews]

26210 高谷好一 [Takaya, Yoshikazu]. Kenneth R. Hall, *Maritime Trade and State Development in Early Southeast Asia*. 229.

26211 河野泰之 [Kono, Yasuyuki]. Gerald G. Marten (ed.), *Traditional Agriculture in Southeast Asia: A Human Ecology Perspective*. 229-230.

26212 根本 敬 [Nemoto, Kei]. Khin Yi, *The Dobama Movement in Burma (1930-1938)*. 230-232.

現地通信 [Field Report]

26213 吉川利治 [Yoshikawa, Toshiharu]. タイ国立公文書館の「大東亜」戦争関係資料 [Materials on the Second World War in the National Archives Division of Thailand]. 233-234.

26214 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 235-238.

26巻3号 [Vol. 26, No. 3] 1988年12月 [Dec. 1988]

論文 [Articles]

26301 桃木至朗 [Momoki, Shiro]. ウェトナム李朝の地方行政単位と地方統治者 [Local Administrative Units and Local Governors in Vietnam under Lý Dynasty]. 241-265.

26302 北原 淳 [Kitahara, Atsushi]. タイ農村における就業構造の地域差 [A Note on Regional Differences in Occupational Structure in Rural Thailand]. 266-292.

26303 玉田芳史 [Tamada, Yoshifumi]. タイの実業家政党と軍——首相府令66/2523を中心として—— [Political Parties and the Military in Thailand: Prime Minister's Office Order 66/2523]. 293-307.

26304 Supiandi Sabiham. Studies on Peat in the Coastal Plains of Sumatra and Borneo —Part I: Physiography and Geomorphology of the Coastal Plains—. 308-335.

書評 [Book Reviews]

26305 森山幹弘 [Moriyama, Mikihiro]. F. S. Eringa, *Soendaas-Nederlands Woordenboek*. 336-338.

26306 土屋健治 [Tsuchiya, Kenji]. J. D. Legge, *Intellectuals and Nationalism in Indonesia: A Study of the Following Recruited by Sutan Sjahrir in Occupation Jakarta*. 338-340.

現地通信 [Field Report]

26307 福井捷朗 [Fukui, Hayao]. 「東南アジアセミナー」臨地研修 [Southeast Asian Seminar in Thailand]. 341-342.

26308 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 343-346.

26巻4号 [Vol. 26, No. 4] 1989年3月 [March 1989]

〈特集〉 マレー世界のなかのマダガスカル

[Madagascar in the Malay World]

- 26401 高谷好一 [Takaya, Yoshikazu]. 編者のことば [Editor's Note]. 349-351.
26402 古川久雄 [Hurukawa, Hisao]. マダガスカル乾燥地帯の土地利用 [Land Use in the Dry Zone of Madagascar]. 352-366.
26403 田中耕司 [Tanaka, Koji]. マダガスカルのイネと稲作[Rice and Rice Culture in Madagascar]. 367-393.
26404 深澤秀夫 [Fukazawa, Hideo]. 稲作を生きる, 稲と稲作の実践と戦略——北部マダガスカル Tsimihety 族に於ける稲作と協同労働——[The Tsimihety Peasants' Practices and Strategies of Rice Cultivation in Northern Madagascar]. 394-416.
26405 前田成文 [Maeda, Narifumi]. ベフディ——ベツィミサラカ族とシハナカ族の狭間で——[Befody: A Settlement between the Betsimisaraka and the Sihanaka]. 417-429.

座談会 [A Discussion]

- 26406 高谷好一ほか [Takaya, Yoshikazu *et al.*]. マダガスカルの農耕——そのマレー的要素について——[Agriculture of Madagascar: Its Malay Elements]. 430-454.

書評 [Book Reviews]

- 26407 江崎光男 [Ezaki, Mitsuo]. ワリン・ウォンハンチャオ; 池本幸生 (編), 『タイの経済政策——歴史・現状・展望——』 [Warin Wonghanchao; and Yukio Ikemoto (eds.), *Economic Development Policy in Thailand: History, Present Situation and Prospect*]. 455-456.
26408 Yoshihara, Kunio. Melanie Beresford, *Vietnam: Politics, Economics and Society*. 456-457.

現地通信 [Field Report]

- 26409 桃木至朗 [Momoki, Shiro]. ハノイ——庶民の味 [Popular Dishes of Hanoi]. 458-459.
26410 寄贈図書目録 [Books Received by the Library]. 460-463.

27巻1号 [Vol. 27, No. 1] 1989年6月 [June 1989].

論文 [Articles]

- 27101 Furukawa, Hisao; and Pichai Wichaidit. Salt and Sinkhole—Corrosion as a Principal Factor Governing Topography and Mass Movement in Northeast Thailand—. 3-34.
27102 Supiandi Sabiham; and Sumawinata Basuki. Studies on Peat in the Coastal Plains of Sumatra and Borneo—Part II: The Clay Mineralogical Composition of Sediments in Coastal Plains of Jambi and South Kalimantan—. 35-54.
27103 石井和子 [Ishii, Kazuko]. 『サン・ヒアン・カマハーヤーニカン (聖大乘論)』にみる古ジャワの密教 [Old Javanese Esoteric Buddhism as Seen in the *Sang Hyang Kamahāyānikan*]. 55-70.

- 27104 土佐弘之 [Tosa, Hiroyuki]. インドネシア権威主義体制と学生運動——政治体制と社会運動との相互作用過程に焦点をあてて——[The Student Movement under the Authoritarian Regime in Indonesia, with Particular Reference to the Period 1977-1978]. 71-108.

資料・研究ノート [Note]

- 27105 小菅伸彦; 松本保美 [Kosuge, Nobuhiko; and Matsumoto, Yasumi]. インドネシアにおける新計量モデルの開発 [The New Version of Econometric Model in Indonesia]. 109-127.

書評 [Book Reviews]

- 27106 大木 昌 [Oki, Akira]. Anthony Reid, *Southeast Asia in the Age of Commerce 1450-1680*, Volume One: *The Lands below the Winds*. 128-129.
- 27107 倉沢愛子 [Kurasawa, Aiko]. Colin, Wild; and Peter Carey (eds.), *Born in Fire: The Indonesian Struggle for Independence*. 129-131.

現地通信 [Field Report]

- 27108 加藤 剛 [Kato, Tsuyoshi]. マレー農村にて [In a Malay Village]. 132-133.
- 27109 寄贈図書目録 [Selected Listing of Books Received by the Library]. 134.

27巻2号 [Vol. 27, No. 2] 1989年9月 [Sept. 1989]

Oei Tiong Ham Concern: The First Business Empire of Southeast Asia

- 27201 Yoshihara, Kunio. Introduction. 137-155.
- 27202 Onghokham. Chinese Capitalism in Dutch Java. 156-176.
- 27203 Coppel, Charles A. Liem Thian Joe's Unpublished History of Kian Gwan. 177-187.
- 27204 Interview: Oei Tjong Ie. 188-220.
- 27205 Interview: Oei Tjong Tjay. 221-265.

書評 [Book Reviews]

- 27206 高阪 章 [Kohsaka, Akira]. Robert B. Dickie; and Thomas A. Layman, *Foreign Investment and Government Policy in the Third World: Forging Common Interests in Indonesia and Beyond*. 266-267.
- 27207 池本幸生 [Ikemoto, Yukio]. Phisit Pakkasem, *Leading Issues in Thailand's Development Transformation: 1960-1990*. 267-269.

現地通信 [Field Report]

- 27208 河野泰之 [Kono, Yasuyuki]. ドンデー村の三人姉妹 [Three Sisters in Don Daeng Village]. 270-271.
- 27209 寄贈図書目録 [Selected Listing of Books Received by the Library]. 272.

27卷3号 [Vol. 27, No. 3] 1989年12月 [Dec. 1989]

- 27301 桜井由躬雄 [Sakurai, Yumio]. 陳朝期紅河デルタ開拓試論 1. 西沱濫原の開拓 [The Red River Delta in the Tran Dynasty (1225-1440). I]. 275-300.
- 27302 鳥飼行博 [Torikai, Yukihiro]. フィリピン米作農村における危険分散とワーク・シェアリング [Risk Spreading and Work Sharing in Philippine Rice-farming Communities]. 301-316.
- 27303 Azizah Kassim. Patterns of Land Ownership and Inheritance in Negeri Sembilan: Some Implications for Agricultural Development. 317-338.
- 27304 Supiandi Sabiham. Studies on Peat in the Coastal Plains of Sumatra and Borneo—Part III: Micromorphological Study of Peat in Coastal Plains of Jambi, South Kalimantan and Brunei—. 339-351.
- 27305 Kimura, Masataka. The Revolution and Realignment of Political Parties in the Philippines (December 1985–January 1988): With a Case in the Province of Batangas. 352-379.

書評 [Book Review]

- 27306 前田成文 [Maeda, Narifumi]. Hendrik M.J. Maier, *In the Center of Authority: The Malay Hikayat Merong Mahawangsa*. Studies on Southeast Asia, No. 4. 380-381.

現地通信 [Field Report]

- 27307 山田 勇 [Yamada, Isamu]. サゴヤシの原生地を求めて [Natural Stands of Sago Palm in East Malesia]. 382-384.
- 27308 寄贈図書目録 [Selected Listing of Books Received by the Library]. 385-386.

3. 研究報告書シリーズ

研究報告書シリーズは、センターが単行本として出版したもので、シンポジウムの報告書、文部省科学研究費補助金による海外学術調査の報告書、その他の研究奨学金を受けて行なった研究の報告書など、各種のものを含んでいる。既刊のものを以下に年度順にあげる。

1. KAWAGUCHI, Keizsaburo, ed. 1965. *Rice Culture in Malaya*, Symposium Series No. 1.
2. INOKI, Masamichi, ed. 1966. *Japan's Future in Southeast Asia*, Symposium Series No. 2.
3. FUJIOKA, Yoshikazu, ed. 1966. *Water Resource Utilization in Southeast Asia*, Symposium Series No. 3.
4. HIGASHI, Noboru, ed. 1968. *Medical Problems in Southeast Asia*, Symposium Series No. 4.
5. 市村 真一 編. 1975. 『稲と農民』
6. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1977. *Preliminary Report on Role of Education in the Rural Development of Southeast Asia—Thailand and Malaysia—*.
7. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1979. *Econometric Models of Asian Countries I*.
8. ICHIMURA, Shinichi; and MIZUNO, Koichi, eds. 1979. *Ecology, New Technology, and Rural Development in Thailand and Malaysia* (with Special Reference to the Role of Education).
9. ICHIMURA, Shinichi, ed. 1980. *Econometric Models of Asian Countries II*.
10. TSUBOUCHI, Yoshihiro; NASRLIDDIN, Iljas; TAKAYA, Yoshikazu; and RASJID, Hanafiah A., eds. 1980. *South Sumatra, Man and Agriculture*.
11. WATABE, Tadayo, ed. 1981. *Report of the Scientific Survey on Traditional Cropping Systems in Tropical Asia, Part 1: India and Sri Lanka, Part 2: Indonesia*.
12. MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds. 1982. *Villages and the Agricultural Landscape in South Sulawesi*.
13. TAKAYA, Yoshikazu; and THIRAMONGKOL, Narong. 1982. *Chao Phraya Delta of Thailand* (Asian Rice-Land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 1).
14. 渡部 忠世 編. 1982. 『南西諸島農耕における南方的要素』
15. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1983. *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (An Interim Report).
16. THAN TUN, ed. 1983. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885, Part One*,

A.D.1598-1648.

17. JAYAWARDENA, S.D.G.; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Sri Lanka and South India.*
18. LUMPAOPONG, Bunyawart; PINTHONG, Jitti; CHALOTHON, Chavalit; and KAIDA, Yoshihiro.
1984. *Chiang Mai-Lamphun Valley, Thailand* (Asian Rice-land Inventory: A Descriptive Atlas, No. 2).
19. MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds.
1984. *Transformation of the Agricultural Landscape in Indonesia.*
20. TSUCHIYA, Kenji, ed. 1984. "States" in Southeast Asia, from "Tradition" to "Modernity."
21. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds.
1985. *A Rice Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand* (The Second Interim Report).
22. THAN TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Two, A.D.1649-1750.
23. THAN TUN, ed. 1985. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Three, A.D.1751-1781.
24. KATO, Tsuyoshi; MUCHTAR, Lutfi; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Agriculture and Society in the Malay World.*
25. TANAKA, Koji; MATTULADA; and MAEDA, Narifumi, eds.
1986. *Environment, Landuse and Society in Wallacea.*
26. THAN TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Four, A.D.1782-1787.
27. THAN TUN, ed. 1986. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Five, A.D.1788-1806.
28. 高谷 好一 編. 1986. 『東南アジア伝統農業資料集成』第1巻.
29. 渡部 忠世 編. 1986. 『日本農耕文化の展開と系譜——島の視点から』
30. EZAKI, Mitsuo, ed. 1987. *Development Planning and Policies in ASEAN Countries.*
31. THAN Tun, ed. 1987. *The Royal Orders of Burma, A.D.1598-1885*, Part Six, A.D.1807-1810.
32. 田中 耕司 編. 1987. 『東南アジア伝統農業資料集成』第2巻.
33. JAIM, W.M.H. et al. 1987. *Review of Literature* (JSARD Working Paper No. 1).
34. HUQ, Muhammad Ammer-Ul 1987. *Review of Literature on Planning Studies in Bangladesh* (JSARD Working Paper No. 2).
35. SOLAĪMAN, M. 1987. *Review of Literature: Institution Building* (JSARD Working Paper No. 3).
36. NOMA, Haruo; and CHAKRABORTY, Ratan Lal, eds.
1987. *Selections of Records on Agriculture, Land Tenure and*

- Economy of Mymensingh District, 1787-1866* (JSARD Working Paper No. 4).
37. THAN TUN, ed. 1988. *The Royal Orders of Burma, A. D. 1598-1885, Part Seven, A. D. 1811-1819.*
38. TAKAYA, Yoshikazu, ed. 1988. *Madagascar: Perspectives from the Malay World.*
39. 高谷 好一 編. 1988. 『古代稲作農耕の学際的研究』
40. 柴山 守 編. 1988. 『東南アジア学研究支援：多言語テキスト処理システムの研究』
41. KUMAGAI, Toru; and KAIDA, Yoshihiro. 1988. *Gobarchitra Village and Chandpur Irrigation Project* (JSARD Working Paper No. 5).
42. FUKUI, Hayao; KAIDA, Yoshihiro; and KUCHIBA, Masuo, eds. 1988. *A Rice-Growing Village Revisited: An Integrated Study of Rural Development in Northeast Thailand (The Third Interim Report).*
43. THAN TUN ed. 1988. *The Royal Order of Burma, A. D. 1598-1885, Part Eight, A. D. 1819-1853.*
44. Aris PONIMAN; 高谷好一 1988. 『伝統農業フィールドノート集』第1巻.
45. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1989. *Oei Tiong Ham Concern: The First Business Empire of Southeast Asia.*
46. TSUBOUCHI, Yoshihiro, ed. 1989. *The Formation of Urban Civilization in Southeast Asia.*
47. YOSHIHARA, Kunio, ed. 1989. *Thai Perceptions of Japanese Modernization* (Published in association with Falcon Press Sdn. Bhd., Kuala Lumpur).
48. SAKURAI, Yumio. 1989. *Land, Water, Rice, and Men in Early Vietnam: Agrarian Adaptation and Socio-Political Organization* (Translated by Thomas A. Stanley).
49. Marasri SIVARAKS, compiled. 1989. *Catalog of Thai Cremation Volumes in the Charas Collection.*

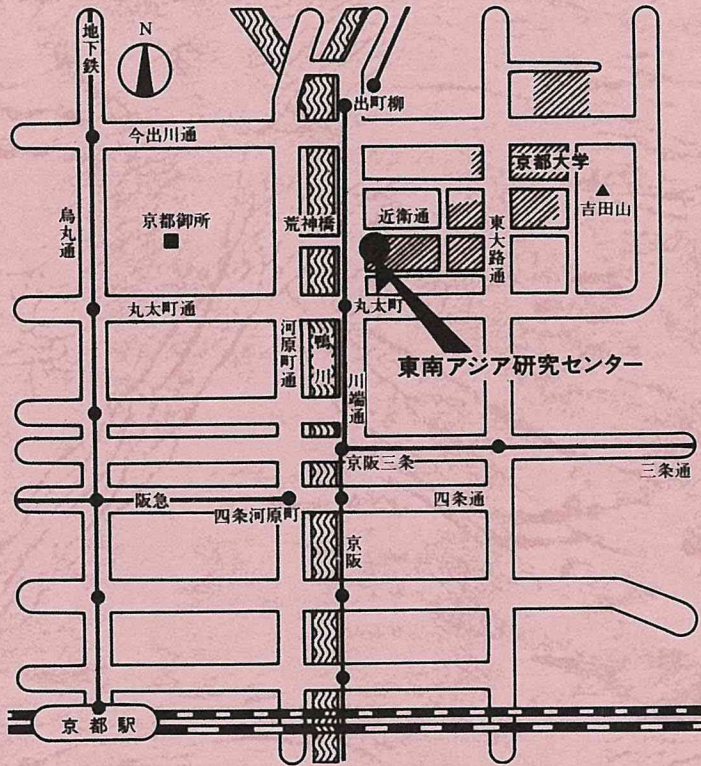
なお、センター関係者の研究報告書のうち、センター以外の機関により出版されたものを、参考までに掲げておく。

JSARD Publication Series (Published by JICA Bangladesh Office)

1. JSARD Editorial Committee, ed. 1988. *Proceedings of the Mid-Term Review Workshop of JSARD, January 24, 1988* (JSARD Publication No. 6).
2. KAIDA, Yoshihiro; and HOSSAIN, S.M. Altaf, eds. 1988. *Gobarchitra Village in Chandpur* (JSARD Publication No. 7).

3. UCHIDA, Haruo *et al.* eds. 1988. *Jawar Village in Kishoreganj* (JSARD Publication No. 8).
4. HOSSAIN, S. M. Altaf. 1988. *Evolution of Cropping Systems in My-mensingh and Comilla Regions* (JSARD Publication No. 12).
5. NISHIMURA, Hiroyuki *et al.* eds. 1989. *Three Villages in Comilla* (JSARD Publication No. 9).
6. MAHARJAN, Keshav Lall. 1989. *Phanishair Village in Chandpur* (JSARD Publication No. 11).
7. CHAKRABORTY, Ratan Lal; and NOMA, Haruo, compiled. 1989. *Select Records on Agriculture and Economy of Comilla District, 1782-1867* (JSARD Publication No. 13).
8. MAMUN, Abdullah Al. 1989. *Agro-Ecological Studies of Weed in Bangladesh* (JSARD Publication No. 14).

案内地図



- ◎「京都駅前」から市バス4、14、特17、または205に乗車。
河原町通「荒神口」で下車、東へ徒歩5分。
- ◎京阪電車「丸太町駅」から北へ徒歩5分。

京都大学東南アジア研究センター

〒606 京都市左京区吉田下阿達町46 Tel. (075)753-7302
Fax (075)753-7350

